รายงานการประชุม

การนำเสนอผลงานวิชาการ ไทย-ญี่ปุ่น
"ปัญหาในการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่น"

ครั้งที่ 3

วันที่ 3 สิงหาคม 2550 จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

Osaka University of Foreign Studies

ธันวาคม 2550

国際シンポジウム『日本語教育の諸問題』報告書

第 3 号

チュラーロンコーン大学

2007 年 8 月 3 日

チュラーロンコーン大学

大阪外国語大学

2007 年 12 月

本報告書は、2007年8月3日にチュラーロンコーン大学で開かれた第3回国際シンポジウム「日本語教育の諸問題」における研究発表の報告書である。この国際シンポジウムは、チュラーロンコーン大学大学院日本語学科と大阪外国語大学大学院日本コースの大学院生を中心とした研究交流の場として年1回開かれており、今年で3回目を迎えた。今回はチュラーロンコーン大学の大学院生による発表2本、大阪外国語大学の大学院生による発表6本と、プログラムも大変充実しており、3回目ということもあって、前にも増して和やかな雰囲気の中、活発な議論が交わされる有意義なシンポジウムとなった。

前日の2日にはチュラーロンコーン大学主催のタイ国日本研究国際シンポジウム2007が大学近隣のホテルで開かれ、講演や研究発表のために多くの日本語・日本語教育・日本文化の研究者が日本から訪れていた。そのうち、海野圭介先生（ノートルダム清心女子大学）、高阪薫先生（甲南大学）、佐伯順子先生（同志社大学）、吉田一彦先生（宇都宮大学）には、この「日本語教育の諸問題」にもご参加いただき、日本語学や日本文学の視点から、様々な有益なコメントをいただいた。このような機会でもなければ接することのない先生方であるだけに、参加者にとっては大変印象深く、新たな刺激を受けるまたとない機会となった。先生方には心からの感謝を申し上げたい。

大阪外国語大学は2007年10月に大阪大学と統合し、大阪外国語大学大学院日本コースは、新生大阪大学の言語文化研究科言語社会専攻日本語日本文化実践コースという新たな組織となった。これまでの交流の積み重ねの上に、今後さらなる友好関係を築いていけるよう、切に願っている。

大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻日本語日本文化講座
筒井　佐代

目次

教師の説明とタイ人日本語学習者における
場所を表す「に」と「で」の選択傾向に関する一考察
ジャルナン・ダナサーンソムバット… 1

日本語母語話者とタイ人日本語学習者の電子メールにおける依頼
－親しい友人へのメールの場合－ 宮崎玲子… 13

『マヤの一生』における人間と動物との交流
ティンナパス・パーハニット… 25

日本語の Wh 感嘆文
山寺由起…. 34

補助動詞構文における（非）限界性と格の標示
－テアル構文の分析を中心に－ 浦木貴和・依田悠介…. 43

『平家物語』と『源平盛衰記』における「巴御前」の表象形態の解析
カナパット・ルーンピロム… 55

いわゆる「詠嘆（えいたん）のモ」について
中尾有岐… 72

日タイ語の感情語とテ形節・thîi 節の意味関係について
ナッティラー・タップティム… 84

教師の説明とタイ人日本語学習者における場所を表す「に」と「で」の選択傾向に関する一考察

ジャルナン　ダナサーンソムバット
（大阪外国語大学大学院　日本語・日本文化特別コース　D１）

1.　研究の目的

外国人日本語学習者における場所を表す「に」と「で」（以下、場所の「に」と「で」と記す。）の習得は、一つの「学習困難」な項目として注目され、これまで多数の先行研究に取り上げられているが、その多くは英語や中国語及び韓国語を母語とする学習者を対象者としたものであり、タイ語母語話者を対象者として扱った研究は管見では見当たらない。そこで、JARUNAN (2003) ではタイ国内の大学で日本語を専攻している大学生への穴埋めテストとフォローアップインタビューを通してタイ人日本語学習者（以下、学習者と記す。）の場所の「に」と「で」の習得状況を把握しようと試みた。又、学習者の場所の「に」と「で」の理解に対する日本語教科書と日本語教師の説明の影響をも明らかにするために、教科書分析及び日本語の教師にもインタビューを行った。その結果、場所の「に」と「で」の用法を理解するために学習者は様々なストラテジーを使用していることが分かった。そして、それらのストラテジーが教科書における「に」と「で」を使った例文や練習問題の文章の出現頻度と日本語の教師の説明に影響を受けている可能性があることを指摘した。

本稿では、学習者のストラテジーと日本語の教師の説明との関係に焦点を置き、詳しく論じる。

2.　先行研究

外国人日本語学習者における場所の「に」と「で」の選択ストラテジーに関する研究には、迫田 (1999、2000、2001) や増田 (2001) や岩崎 (2001) などが

ある。迫田(2001)は学習者が格助詞と隣接する名詞の性質によって、つまり「位置名詞（中・前など位置を示す名詞）」の後ろには「に」、そして、「場所名詞（東京・食堂など地名や建物を示す名詞）」の後ろには「で」を選択する傾向が見られると主張し、このストラテジーを「ユニット形成のストラテジー」と名付けた。一方、増田(2001)は英語母語話者に穴埋めテストとインタビューを実施し、レベルを問わず学習者が「位置名詞＋に」を使う傾向が「場所名詞＋で」より高いこと。また、初級と中級の学習者は「に」を「場所」、「で」を「手段」と理解しているが、上級の学習者は「に」を「特定の場所」、「で」を「不特定の場所」と理解していることを報告した。これに対して、岩崎(2001)も英語母語話者へのインタビューを資料として、学習者が動詞によってではなく名詞の意味で、つまり「特定の場所」であれば「に」を使い、「一般的な場所」であれば「で」を使うというストラテジーが見られるとした。以上のように増田(2001)、岩崎(2001)も迫田(2001)と同様の結果を示している。これに対して、野田(2001)は、母語話者の日本語や教科書の日本語では「位置名詞」はいつも「に」と共起し、又反対に「場所名詞」はいつも「で」と共起するかのように学習者には見えるために、ユニット形成のストラテジーが構築されていくと述べている。しかし、これらの研究はJFL（Japanese as a foreign language）環境における日本語学習者にとって重要な要因の一つである教師の説明[1]が、学習者が用いるストラテジーと如何に関わるについては言及されていない。

3. 本調査

3.1. 資料収集方法

本調査は（1）穴埋めテストと（2）インタビューの２段階に分かれている。調査の概要は以下の通りである。

---

[1] 吉野（1999）は文法領域の学習において学習者が教師やテキストに依存する傾向があると指摘している。

3.1.1. 穴埋めテスト

(1) 調査対象

タイ商工会議所大学人文学部日本語学科で日本語を専攻している164名の大学生（内訳：1年生64名、2年生60名、3年生40名）

(2) 場所の「に」と「で」の分類と問題文の構造

JARUNAN (2003) では、場所の「に」と「で」の用法を４つに分類[2]し40問の穴埋めテストを作成した。表1は各分類とその一例である。

文型	問題数	例文
「に—存在の場所」	4問	(2)[3] 机の上（　）本が2冊あります。 (26) 日本（　）は古い町がたくさんあります。
「に—結果依存の場所」	21問	(5) 日本（　）留学したい。(留学する:ศึกษาต่อต่างประเทศ)[4] (6) ソムチャイさんは前のタクシーの中（　）座っています。(座る:นั่ง)
「で—動作の場所」	11問	(4) 毎週の日曜日、家の近くのプール（　）泳ぎます。(泳ぐ:ว่ายน้ำ) (11) ユリさんはバス停（　）お姉さんを待っています。(待つ:รอ,คอย)
「で—イベント・出来事の場所」	4問	(7) 今朝、アパートの近く（　）火事がありました。(火事:ไฟไหม้) (50) 7年前に神戸（　）大きい地震がありました。 (神戸:ชื่อเมืองเมืองหนึ่งในประเทศญี่ปุ่น, 地震:แผ่นดินไหว)

表1　穴埋めテストの構造とその一例

3.1.2. インタビュー

(1) 調査対象

(1.1) 学習者

---

[2]場所を表す「に」と「で」の分類に関しては東京外国語大学留学生センターの『初級日本語』と寺村（1999）の『日本語シンタクスと意味Ⅰ』における分類方法を参考にして分けた。

[3]（　）内の数字は穴埋めテストでの問題番号を表す。

[4]質問文では全ての漢字の上に振り仮名を振り、学習者が分からないと思われる単語にはタイ語訳の意味をも付けておいた。

穴埋めテストを受けた164名の大学生の内の45名[5]（内訳：1年生13名、2年生18名、3年生14名）にフォローアップインタビューを行った。

(1.2)　日本語教師

当大学で当時日本語の授業を担当した5名のタイ人教師

(2)　インタビュー内容の詳細

(2.1)　学習者へのインタビュー

(2.1.1)　所要時間

一人に約15分から20分程度のインタビューをタイ語で行った。インタビューを行ったのは2名で、筆者以外に日本に1年間の短期留学経験を持つタイ人の協力を得て、事前にインタビューの目的及び手順を打ち合わせ、調査者がインタビューするのを2回程観察してもらってから実際に被験者をインタビューするということにした。インタビューする人数の分担に関しては調査者が33名、アシスタントが12名だった。

(2.1.2)　インタビューの内容

インタビューの内容は表2の通りである。

学習者へのインタビューの内容
1 「に」と「で」の用法を説明してもらう。
2 位置名詞の後ろに「に」を選択する傾向があるかどうか自分で自分のことを判断してもらう。
3 穴埋めテストを行う時に質問文のどの部分に着目して格助詞を選択したか。
4 「に」と「で」の用法についてはどこから情報を得たか。
5 パターンで捉えて覚えたりするものがあるか。

表2　学習者に対するインタビュー内容の詳細

(2.2)　日本語教師の場合

(2.2.1)　所要時間

5名の日本語教師に対して一人につき約1時間程度のインタビューをタイ語で行った。

[5] 無作為的に50名を抽出したが、その内の5名が日本語を辞めて他の所に転科したため、最終的にインタビューできたのが45名となった。

(2.2.2) インタビューの内容

インタビューの内容は表3の通りである。

教師へのインタビューの内容
1 「に—存在の場所」の用法についてどのように説明しているか。
2 「で—動作の場所」の用法についてどのように説明しているか。
3 「に—結果依存の場所」の用法についてどのように説明しているか。
4 「で—イベント・出来事の場所」の用法についてどのように説明しているか。
5 「に」と「で」の使い分け方は文のどの部分に注目させているか。

表3 教師に対するインタビュー内容の詳細

3.2. 結果

3.2.1. 穴埋めテスト

図1に示した通り、「に」の全体的な正用率は69.8%で「で」の全体的な正用率 62.0%より高くなっている。このことから、一見「に」の習得の方が「で」より進んでいるかのように見えるが、全体的な誤用率を見ると、「に」の誤用率は 37.6%で「で」の 18.7%より高い。最終的には「に」の習得が「で」より遅れると言える。

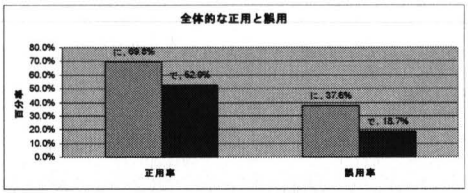


図1「に」と「で」の全体的な結果[6]

---

[6] 正用率を算出する計算式：

$$\text{正用率 (\%)} = \left\{ \frac{\text{正用数}}{\text{学習者数}} \right\} \times \frac{100}{\text{問題数}}$$

誤用率を算出する計算式：

$$\text{誤用率 (\%)} = \left\{ \frac{\text{誤用数}}{\text{学習者数}} \right\} \times \frac{100}{\text{問題数}}$$

又、文型別の正用率と誤用率を表した図2を観察したところ、「存在の場所」、「結果依存の場所」については「に」の文型である「に」の正用率は69.1%、69.4%と「で」の正用率63.0%、40.2%より高いが、反対に「で」の文型である「動作の場所」、「イベントの場所」については、「に」の誤用率は30.3%、45.7%で「に」の文型における「で」の誤用率12.1%、22.2%より高い。

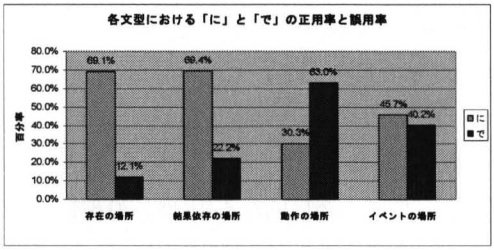


図2　各文型における「に」と「で」の正用率と誤用率

一方、図3で表したユニット形成のストラテジーの誤使用率に目を移してみると、学習者の「位置名詞＋に」の使用率は45.6%、「場所名詞＋で」の使用率は22.6%であり、「位置名詞＋に」が「場所名詞＋で」より使用する傾向が著しいことが分かる。

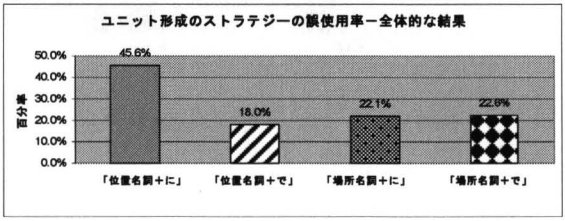


図3　ユニット形成のストラテジーの全体的な誤使用率

3.2.2.　インタビュー結果

(1)　学習者へのインタビュー

各質問に対する学習者の答えの一例を学年別で表4にまとめておく。

質問	返答の一例(学年別)		
	1年生	2年生	3年生
1. 「に」と「で」の用法に対する理解	A:「に」=動作のない場所/時間を示す、「で」=手段/動作の場所	A:「に」=動作のない場所/時間、「で」=動作のある場所/原因	A:「に」=特定の場所、「で」=ACTIONのある場所
	B:「に」=どこかに何かがある/行き先/日曜・時間、「で」=動作のある場所	B:「に」=存在の場所/時間、「で」=手段	B:「に」=行き先・目的地を示す、「で」=動作を行う場所
2. 「位置名詞+に」の使用傾向	A:よく「~の中に」「~の前に」を見るが、動作動詞だったら「で」を使う。	A:必ずしもそうではないが、ぱっと見たら使ってしまう。	A:動詞を見る。
	B:「位置名詞」があっても後部の動詞を見る。	B:後部の動詞を見て判断する。	B:殆ど「位置名詞+に」と思う。
3. 格助詞の選択基準	A:後部の動詞を見て訳してみてから判断する。	A:全部を見る。	A:動詞を見るが、それだけで判断するわけではない。
	B: 前部の動詞も見るが、殆ど動詞を見る。	B:文全体を見る。	B:動詞を見る。
4 「に」と「で」の用法に関する情報源	A:先生	A:先生	A:既習の知識と先生と勘
	B:先生	B:先生と先輩	B:先生
5. パターンで覚えるものの有無	A:ない。	A:「ある」だったら、殆ど「に」を使う。	A:「ベッドに寝る」「~に置く」「~に住む」「~に~がある」はパターンで勉強した。
	B:「座る」は先生に「に」と一緒に使うと教わった。「住む」は「に」と共起すると覚える。	B:ない。	B:「~に座る」はパターンで覚えている。「~に~がある」はパターンと先生に教わった。

表4　各質問に対する学習者の返答の一例

以上の結果を見ると、学習者は「に」を「動作のない場所」、そして「で」を「動作のある場所」と理解している傾向があり、「位置名詞」の後ろに必ずしも「に」が来るとは決まっておらず、後部の動詞の性質で判断すべきだということは知っているが、「位置名詞」が文の一つの要素として存在する場合、「に」を選択する傾向があることが分かった。又、「に」と「で」の用法に関する情報については教師に頼る傾向が強く、教師に教わった通りに「に」と共起する特定の動詞、つまり「座る」「住む」「置く」及び物の存在を表す「~に~がある」をパターンで捉える傾向も見られた。

(2)　日本語教師へのインタビュー

5名の日本語教師をインタビューした結果は以下の表5の通りである。

教師	「に」存在場所	「で」動作場所	「に」結果依存場所	「で」イベント・出来事場所	「に」と「で」の使い分けは文のどの部分に注目させるのか
A先生	存在:何かがどこかに静止している様子。特定の点がある。「～に～がある」という構文の形に注目する様に教える。	何らかの動きが感じられる。ACTION	決まり表現であるから「～に住む」や「～に乗る」などをパターンで覚えさせる。	動き・ACTIONを表す名詞であるかどうか、チェックするように教える。	動詞を見るように教える。「に」を使うか「で」を使うか、まず学生にその動詞はACTIONを表している動詞であるかなど動詞の種類をチェックするように教える。
B先生	「います・あります」であったら、「に」を使うとパターンで覚えさせる。	「～する・食べる・サッカーをやる・読む・勉強する・買い物する」であったら、動詞を考察してから「で」を使う。ACTIONのある場所。	「置く・止める・捨てる・泊まる・住んでいる」などの動詞は「に」と使う動詞だというように教えてパターンで覚えさせる。	名詞は「物」ではなく「イベント・出来事」であるからACTIONがある。ACTIONがあるから場所を示す助詞もACTIONがある場所を表す助詞、つまり「で」にしなければならない。この種類の数が少ないから学生はまたパターンで覚えさせる。	述語を見るように教える。
C先生	存在を表す動詞であれば「に」を使う。	ACTIONを表す動詞であれば「で」を使う。	「～にいる」と類似するものだと教える。	?[7]	動詞に注目するように教える。
D先生	「いる・ある」など、どこかに存在する様子を表すものであるから「に」を使う。	ACTIONの動詞だったら、場所の後ろに「で」を使う。	動詞の結果がどこかに依存したら、そこに「に」を使う。	名詞はACTIONを表す名詞であるかどうか名詞に注目するように教える。	最初は動詞に注目させる。しかし、動詞のグループを分類しても全ての場合に対応でき、助詞をうまく使いこなせるとは限らないから、時々他の成分にも目を向けなければならないと教える。
E先生	どこに何がある、つまり物などの存在を表す。	その場所は動作が行われた場所であることを示す。	「寝る」などACTIONがないから「に」を使う。存在を表すこと以外にACTION動詞と一緒にも「に」は使えるがその場合、動詞が何らかの動作を表し、そしてその動作の結果が未だに残ってい	名詞は動作を表す・動きのある名詞であるからACTION動詞と同様にACTIONがあるものなので「で」を使う。	動詞に注目させる。それぞれの動詞はどんなことを表しているか考えさせる。

7 「?」は答えが得られなかったことを表す。

			るから例えば「座ります・書きます」なども本当はACTIONがある動詞であるが、その行動の過程ではなく行動が行われた後の結果に注目するから「に」を使う。		

表5　日本語教師をインタビューして得られた結果

以上の結果から日本語教師は、全員場所の「に」と「で」の用法を同じように説明していることが分かった。つまり、「に－存在の場所」を「～に～がある／いる」というパターンで、「で－動作の場所」を「動作・ACTIONが行われる場所」と、「に－結果依存の場所」を「～に＋座る」や「～に＋住む」のように「～に＋特定の動詞」というパターンで、そして「で－イベント・出来事の場所」を「名詞が動きや動作を表すものであるかどうか判断する」と説明している。又、「に」と「で」の使い分け方について全員が「後部の動詞に着目するように教える」と答えた。

教師の説明と学習者のインタビューに対する答え及びその答えた人数の詳細と合わせて次の表6にまとめる。

表6に示すように学習者が教師の説明通りに、場所の「に」と「で」の用法と格助詞の選択基準を把握していることが窺われる。換言すれば、学習者は教師の説明に頼る傾向が著しいと言える。

質問文	返答	このように答えた教師数	この通りに理解した学習者数
1「に—存在の場所」	「～に～がある／いる」	5人中3人	45人中23人
2「で—動作の場所」	「動き・ACTION・動作」	全員	45人中31人
3「に—結果依存の場所」	「～に＋動詞」	5人中4人	45人中19人
4「で—イベント・出来事の場所」	「ACTION」のある名詞」	5人中4人	未確認
5 場所を表す「に」と「で」を使い分けするのにはどの部分に注目すべきか	「文の後部にある動詞に注目すべき」	5人全員	45人中32人

表6　教師と学習者の返答及び人数の詳細

次節では穴埋めテストとインタビューの結果を通して、学習者への教師の説明の影響について考察する。

3.3. 考察

穴埋めテストとインタビューの結果により、教師の説明には学習者の場所の「に」と「で」に対する理解と選択ストラテジーに影響を及ぼすものとそうではないものとの二種類に分けられると考えられる。

(1) 影響のあるもの

学習者は教師に教わった通りに「～に～がある」と「～に＋特定の動詞（「～に住む」など）」をパターンで覚え、穴埋めテストを受ける際にもこの知識を用いて助詞を選択していることがフォローアップインタビューで明らかになった。このことから教師の文法形式に焦点を当てたパターンの説明は学習者における「に」と「で」の選択ストラテジーに影響があると考えられる。

(2) 影響のないもの

一方、学習者は「に」又は「で」を使うべきかは後部の動詞に着目して判断しなければならないと知っているにも関わらず、実際に選択する場合には、「位置名詞」で判断してしまうことがインタビューで分かった。このことにより教師のメタ言語的な説明[8]は、学習者の場所の「に」と「で」の用法についての知識には影響があると考えられるが、穴埋めテストなどのような言語能力テストをする際には、学習者がこの知識を用いるとは限らないということである。

---

[8] メタ言語(meta language)とは、言語を分析、記述するために用いられることば、例えば、「犬は名詞である。」といった表現はメタ言語的である（高見澤 1999）。そこで、本稿では「場所の『に』は存在の場所を示すものであり、場所の『で』は動作の場所を示すものである。」というような場所の「に」と「で」の用法に対する教師の説明は「メタ言語的な説明」と呼び、「存在の場所は『～に～がある』」などといった場所の「に」と「で」の用法に対してパターンで学習させる教師の説明、つまり「パターン形式的な説明」と対立する説明の仕方とする。

4. 結論及び日本語教育への示唆

本稿では、穴埋めテストとインタビューの結果を通して、タイ人日本語学習者の場所の「に」と「で」の用法に対する理解と選択ストラテジーを把握することを試みた。そこで、場所の「に」と「で」を選択する時に用いるストラテジーは、学習者自身が構築した「位置名詞＋に」のユニット形成のストラテジーと教師の説明から影響を受けるストラテジーがあることが分かった。それは、「～に～がある」と「～に＋特定の動詞（「～に住む」など）」といったパターン形成のストラテジーである。インタビューにより、教師が「に－存在の場所」と「に－結果依存の場所」の用法をパターンで学習者に教え、そして学習者もこの知識を穴埋めテストの時に用いることが明らかになった。従って、教師のパターンを利用した説明は、学習者の場所の「に」と「で」の選択ストラテジーの構築を促進させる働きがあるのではないかと推測できる。これに対して、インタビューで分かったように、学習者は教師に教わった通りに場所の「に」と「で」の用法を正確に理解しているものの、穴埋めテストを受ける時にはこの知識を用いず、代わりにユニット形成のストラテジーやパターン形成のストラテジーを使用することから、教師のメタ言語的な説明は学習者の場所の「に」と「で」の用法に関する知識として蓄積されるが、穴埋めテストなどの言語能力測定テストをする際には、その知識を使うとは限らず、教師のメタ言語的な説明は学習者の助詞選択ストラテジーに影響があるとは言いがたい。

又、上記のパターン形成のストラテジーが「に－存在の場所」と「に－結果依存の場所」文型における「に」の正用を促す力を持つ反面、「に－存在の場所」の文型と構造上が類似する「で－イベント・出来事」文型における誤用を引き出す一つの要因にもなるのではないかと考えられる。従って、JFL環境の下で日本語を勉強する学習者にとっては、教師の説明が学習を促進させる変数であると同時に、学習に何らかの負の影響をももたらすものだと言わざるを得ないだろう。教師は、教室内において自分の説明や練習の学習者ストラテジーにもたらす影響を知り、注意深く行わなければならないことを指摘して本稿を締めくくりたい。

<参考文献>

岩崎典子（2001）「英語母語話者は『で』と『に』をどのように捉えているのかー インタビュー調査から見えてきたこと」『日本語教育学会春季大会2001年度』予稿集 日本語教育学会 pp.61－66

迫田久美子（1999）「学習者の文法習得の実例」『日本語教育学会春季大会1999年度』予稿集 日本語教育学会 pp.19－24

――――（2000）「第2章 学習者の文法処理方法」『日本語学習者の文法習得』 大修館書店 pp.25－43

――――（2001）「学習者の誤用を生み出す言語処理のストラテジー（1）－場所を表す『に』と『で』の場合－」『日本語教育研究』第11号 広島大学教育学部日本語教育講座 pp.17－22

ジャルナン ダナサーンソムバット（2002）「タイ人日本語学習者における日本語の場所を表す「に」と「で」の習得－穴埋めテストとインタビューを通して観察した結果－」『日本語・日本文化研究』第12号 大阪外国語大学日本語講座 pp.147－159

高見澤孟（1999）『はじめての日本語教育［基本用語辞典］』アルク

野田尚史（1999）「学習者の文法と日本語の文法」『日本語教育学会春季大会1999年度』予稿集 日本語教育学会 pp.39－44

――――（2001）「第3章 学習者独自の文法背景」『日本語学習者の文法習得』 大修館書店 pp.45－62

本稿は大阪外国語大学修士論文、JARUNAN (2003)「日本語学習者における場所を表す『に』と『で』の習得研究－タイの大学における調査－」の一部に加筆修正したものである。

日本語母語話者とタイ人日本語学習者の電子メールにおける依頼
－親しい友人へのメールの場合－

宮崎 玲子（大阪外国語大学大学院　日本コース　M2）

1　はじめに

電子メール[1]（以下、メールとする）は簡便性・保存性・即時性などの面から、手紙や電話に取って代わるコミュニケーションの媒体として幅広く使われるようになってきた。日本で日本語を学習している学習者はもちろん、海外で学習している学習者も日本語でメールを書く機会が増えてきている。しかし、メールは表情や音声など非言語的な行動が欠けるため、ニュアンスを伝えるのが難しく、適切な丁寧さと構成で書かなければ、対面場面より摩擦や理解のずれが生じやすい。そのため、メールでは相手との関係や内容によって、言語表現はもちろんのこと、話題の展開のしかたや使用する表現など様々な点に注意を払って書く必要がある。

本研究では、対面場面においても摩擦や誤解が生じやすい依頼行動をとりあげ、日本語母語話者とタイ人日本語学習者の書く依頼メールで依頼行動がどのように展開し、またどのような言語表現が用いられているかを比較し、接触場面において摩擦の原因となり得る要因を明らかにすることを目的とする。

2　先行研究

「メール」というメディアに関する研究は、社会学の分野で現代人の情報行動の点からメールの使用を分析しているもの（橋元 2001、2003）や、日本語学の分野でメールにおける言語的特徴を分析したもの（太田 2001、佐竹 2005）などがある。また、「依頼」に関する研究も、日本語における依頼のストラテジーの研究（熊谷 1995、三井 1998）や談話の展開に関する研究（柏崎 1995、2004）

[1] 本稿での対象はパソコンメールに限り、携帯でのメールは分析対象外とする。

など、さらに、他の言語との対照研究（猪崎 2000、堀江 1995、笹川 1994）も盛んに行われている。しかし、日本語教育学の分野で「メールでのコミュニケーション」を取り扱った研究は、台湾人と日本人の書く母語でのメールの対照研究である李（2004）、日本語母語話者同士の「依頼」→「断り」のやり取りを取り扱った蔡（2005）、日本語母語話者と台湾人日本語学習者を対象にメールでの依頼における「お詫び・謝罪型」表現について考察した頼（2005）などに限られ、まだ多いとは言えない。

3　研究の概要

3.1　被験者とデータの設定課題

本研究におけるデータ収集は、大学及び大学院に在学中の日本語母語話者（以下、JJ-A～Nとする）14名（女性8名・男性6名）及び、タイの大学で日本語を主専攻で学ぶタイ人日本語学習者（以下、TJ-A～N）14名（女性13名・男性1名[2]）を対象に行った。尚、TJは日本に1ヶ月以上の滞在暦がない学生に限定した。平均年齢はJJ:20.8歳、TJ:20.5歳である。TJの日本語の学習暦は4～8年（平均5.5年）、日本語能力試験2級合格者が7名、3級合格者が7名である。

使用データは、JJ及びTJによって書かれた日本語での依頼メールである。両者は以下のような状況を各々の母語で与えられ、メールを書くよう指示された。送信されたメールには筆者が被依頼者役になり返信し、相手と約束ができるまでのメールすべてを収集した。その他、やり取り終了後にフォローアップアンケート[3]を行った。以下が、被験者に与えた指示の内容である。

あなたは大学の授業のレポートで「沖縄の文化」について調べています。そこで、沖縄出身の木村ひろみさんにインタビューをしたいと思っています。レポートの締め切りは 1 ヵ月後です。木村さんは同性、同い年の親しい友達ですが、今は夏休み中なので、会う機会はありません。木村さんにメール

---

[2] 今回男性の日本語学習者が少なく、男女同数での比較が難しいため、男女差は考慮しない。

[3] フォローアップアンケートでは、それぞれのメールを書くときに注意した点、難しく感じた点、気づいた点などを聞いた。また、TJに対してはメールを書く際に参考にしたものがあるかどうかについても聞いた。

を書き、インタビューを受けてもらえるようにお願いしてください。

依頼メールを書く際には、相手との関係や依頼の負担の軽重など、各種の要素によって書き方が左右される。そのため、本研究では、依頼の相手を最も気軽に依頼ができるであろう親しい同等の相手とした。

3.2 データの分析方法

『日本語Eメールの書き方』(2005) では、メールの基本構成を右図のように提示している。ザトラウスキー (1993) は、電話会話は「明確な『開始部』と『終了部』を持つ会話である」と位置づけているが、本稿では、メールも電話会話と同じく開始と終了を明確に示す言語形式で枠付けられると考え、『日本語Eメールの書き方』(2005) を参考に、まず、1回のメールを「開始部」「主要部」「終了部」に分けた。「開始部」は依頼前の挨拶や近況伺い、「主要部」は依頼に関するやり取り及び返信要求、「終了部」は別れの挨拶や署名を指す。次に、猪崎 (2000) などを参考に各部を談話展開の種類ごとに分け、JJ、TJ の談話展開の特徴を比較する。尚、紙幅の都合上、本稿では JJ、TJ から最初に送信されたメールについてのみ考察し、後の返信メールについては考察しない。

図 1：メールの基本構成

Subject :留学生パーティーへの誘い		
リーさん：	前置き	宛先
エリックです。		送信者
こんにちは。		あいさつ
今日、留学生センターの掲示板を見たんですが、 21日に生協の食堂で 留学生パーティー」があるそうです。 リナと行く約束をしたんですけど、 リーさんもいっしょに行きませんか。	本文	本文の前置き
日時 2月21日 (火) 18:00～20:00 場所 大学会館2階の食堂 卒業生 修了生を送るパーティーで、会費は無料。 料理もたくさんあるそうです。		内容
返事、待ってます。		返事の要求
じゃ、また。	むすび	
エリック・ウィリアムズ	署名	

4 結果と考察

本節では収集したメールの全体像を示す。表 **1** は各談話で用いられた談話展開の項目である。定義は先行研究 (猪崎 2000、柏埼 2004、パブリツカ 2006、

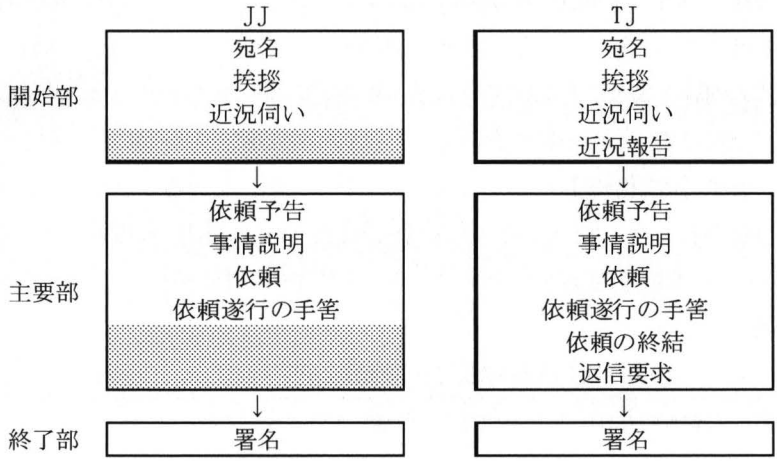
シンハウォラサップ 2007）を参考に分類し、先行研究の分類以外に現れたもの（※印）については、筆者が付け加えた。また、当該項目を用いていた JJ、TJ の人数と％も併記した。

表 1：談話展開の下位類型

	談話展開の下位類型	定義	例	JJ (n=14)	TJ (n=14)
開始部	宛名※	相手の宛名	ひろちゃんへ	7 (50%)	8 (57%)
	挨拶	初めの挨拶が行われる部分	おはよう。／久しぶり。	11 (79%)	10 (71%)
	名乗り※	自分の名前や所属などの情報開示が行われる部分	依頼者のニックネーム）です。	3 (21%)	6 (43%)
	近況伺い※	相手の近況に言及する部分	元気？・夏休みいかがお過ごし？	13 (93%)	13 (93%)
	近況報告※	自分の近況を伝える部分	私は元気に夏休みを楽しんでるよ（o^）	5 (36%)	7 (50%)
	迷惑への詫び	相手に迷惑をかけることを詫びる部分	突然ごめんね。	1 (7%)	0 (0%)
主要部	依頼予告	以降に続く発話で依頼がなされることを予め伝えておく部分	ひろちゃんにお願いがあってメールしたんだけど、	7 (50%)	10 (71%)
	事情説明	依頼に入る前に依頼に関する情報を伝えたり、依頼に必要な情報を尋ねたりする部分	今、大学の授業で「沖縄の文化」について調べてるんだけど、	14 (100%)	13 (93%)
	依頼	相手になんらかの行為遂行を依頼、または許可を求める部分	いろいろ話聞きたいんだけど協力してくれないかなぁ。	14 (100%)	14 (100%)
	依頼に関する情報提供	依頼内容に関する情報の補足を行う部分	インタビューって言っても、そんなに時間かからんと思うわ。	5 (36%)	5 (36%)
	依頼の背景に関する確認	相手が依頼するにふさわしい相手であるかどうかの確認をする部分	ひろみちゃん沖縄出身だよね	2 (14%)	1 (7%)
	相手の状況確認	相手が依頼を承諾できる状況にあるかどうかの確認をする部分	もしかして今実家????	2 (14%)	1 (7%)
	依頼遂行の手筈	依頼遂行の日程や場所の調整に関わる部分	できれば今週か来週で、都合いい日があったら教えて下さい！	7 (50%)	8 (57%)
	迷惑への詫び	相手に迷惑をかけることを詫びる部分	夏休み中にごめんね（_）	3 (21%)	3 (21%)
	依頼の正当化※	依頼の重要性を述べたり、被依頼者として選んだ理由などを強調する部分	本とかインターネットで調べてんだけど、やっぱり沖縄の人の生の声を聞きたいから、	2 (14%)	0 (0%)
	負担の軽減	相手の意思や都合を優先したり、代案を出したりして被依頼者の負担を軽減する部分	もし無理だったら電話でもいいので。	3 (21%)	0 (0%)
	代償	恩返しの表出をする部分	マクドでも何でもおごるから頼む～！！	1 (7%)	0 (0%)
	依頼の終結	依頼を重ねたり、依頼をまとめる部分	ご面倒かとは思いますが、どうかご協力よろしくお願いします（_）	5 (36%)	7 (50%)
	返信要求※	返信を求める部分	では返事まってまーす！	6 (43%)	9 (64%)
終了部	挨拶	終結の挨拶が行われる部分	じゃ、また。／では、夏バテしないようにね。	2 (14%)	5 (36%)
	感謝	感謝の気持ちを表す部分	どうもありがとうございます。	0 (0%)	2 (14%)
	署名※	署名	依頼者の名前）	12 (86%)	10 (71%)

さらに、その中から、被験者の 50%以上が使用していた項目を抽出し整理した結果、図 2 のような構造を示した。

図 2:JJ、TJ のメールの構造



次節以降では、各部の詳細について、例を挙げながら考察していく。

4.1 開始部

図 2 の示すように、開始部では JJ、TJ ともほぼ同様な展開を示している。互いの近況について言及することで親しみを示し、依頼前の地ならしを行っている例が多く見られた。JJ、TJ 共、近況伺いは 93%が用いていたが、JJ では近況報告の使用は 36%だったのに対し、TJ では 50%が使用していた。

例1　JJ-A)

久しぶり☆元気？夏休み満喫してる～？最近超暑いね。沖縄はもっと暑いのかな～	【挨拶】【近況伺い】

例2　TJ-B)

こんにちは　ひろみちゃん元気？夏休みはどう？　私は毎日毎日レポートばかりしてとてもつまらない。でも仕方がないからやるしかない。	【挨拶】【近況伺い】【近況報告】

4.2　主要部

依頼の展開

加藤（2004）では、「依頼」の手紙文の「主文」は2通りの構成が可能であると述べられている。「『背景・事情の説明』を先に書き、続いて『依頼』の具体的内容を書くもの」と「手紙文の内容が『依頼』であることを明示しつつ『依頼』の具体的内容を書き、その後で『背景・事情』の説明をするという進め方」である。今回収集したデータにおいては、JJの「主要部」の冒頭には、例3のように、まず【依頼予告】により当該メールが「依頼」であることを示し、次に【事情説明】を行ってから明示的な【依頼】が行われるもの（50%）と、例4のように、【事情説明】が先に行われ、続いて具体的な【依頼】に入るもの（50%）の2通りが見られた。

例3　JJ-K）【依頼予告】→【事情説明】→【依頼】

いきなりなんやけど、頼みたいことあってさ。沖縄の文化っていうテーマでレポートだすことになって、色々調べとったんやけど、ひろみちゃんが沖縄出身やったことふと思い出してさ。レポート書くのに参考にしたいから、ちょっとインタビューさせてもらえんかな～と思て。	【依頼予告】 【事情説明】 【依頼】

例4　JJ-I）【事情説明】→【依頼】

今ね、「沖縄の文化」について調べてるんだけど、ひろみちゃん沖縄出身だよね？！よかったらインタビューに答えてもらいたいんだけど(>＜)　近いうちに会えないかな？？	【事情説明】 【相手の状況確認】 【依頼】

一方、TJでは、例5のように、まず【依頼予告】で「依頼」を明示し、次に【事情説明】を行ってから【依頼】というパターンの方を14名中10名（71%）が用いていた。尚、『日本語Eメールの書き方』（2005）のモデルもこの展開で構成されており、TJに依頼の展開パターンとしてインプットされているのではないかと考えられる。

例5　TJ-D）【依頼予告】→【事情説明】→【依頼】

実はお願いがあるけど、今、沖縄の文化についてレポートを書いているんだ	【依頼予告】

けど、情報は足りないみたいの。だから、ひろみちゃんに沖縄の文化について30分ぐらいインタビューしたいと思って、お願いできるかな。	【事情説明】 【依頼】

また、例6のように、先に【事情説明】が行われてから【依頼】が行われるものは3名（21%）で、「依頼」のみという形も1名（7%）見られた。

例6　TJ-G）【事情説明】→【依頼】

今私は沖縄の文化について研究しています。木村さんは沖縄出身ですね。よかったら、木村さんに沖縄の文化についてインタビューしてもらえませんか。	【事情説明】【相手の状況確認】【依頼】

【依頼遂行の手筈】

日本語の依頼では、対面や電話での場合、相手からの依頼承諾を得た上で実際の日程の調整に移ることが多いが、メールの場合はJJ、TJ共、承諾を得る前の1回目のメールから、相手が依頼を承諾した場合、いつインタビューができるかという相手の都合に言及するものが見られた（JJ:50%, TJ:57%）。また、TJの場合、例7のように、日時指定を行う例も見られた（21%）。

例7　TJ-B）

沖縄についてレポートしてるからひろみちゃんにインタビューしたい。 都合がよかったら、来週の日曜日にしたいん。	【事情説明】【依頼】 【依頼遂行の手筈】

タイ語の依頼では、被依頼者も日時が予め分かっていた方が依頼を承諾／拒否しやすくなり、依頼者からの日時指定も普通であるとの情報をタイ語母語話者から得ている。しかし、日本語では依頼者からの日時指定は一般的ではなく、指定した場合は強引なイメージを与えかねない。

【依頼の終結】

「よろしくお願いします」のような【依頼の終結】の表現は初級のうちから導入される表現であり、『日本語Eメールの書き方』（2005）でも「お願いのむすび」として紹介されている。しかし、JJでの使用は36%に留まっていた。また、使用される場合も「時間があれば（例8）」のような譲歩表現を使う、「ご面倒かとは思いますが（例9）」のように【迷惑への詫び】を用い相手の負担に

言及する、顔文字を使用する（例9）など、様々なバリエーションが見られた。

例8　JJ-B）

そんなわけで時間があればヨロシク!!	【依頼の終結】

例9　JJ-F）

ご面倒かとは思いますが、どうかご協力よろしくお願いします(>_<)	【迷惑への詫び】【依頼終結】

一方、TJ では 50%が【依頼の終結】の表現を使用しており、「よろしく（例10）」のみ用いているものや、「お願いしますね（例 11）」のように「ね」を用いているため、相手に依頼を押し付ける印象を与えてしまう危険性のあるものも見られた。「よろしくお願いします」のような【依頼の終結】の表現は、疎の相手や目上の相手へ依頼する場合には儀礼的に用いられる。しかし、親同等へ使う場合には、譲歩表現と共に使う、迷惑への詫びを使用するなど、使用により注意が必要になるであろう。

例10 TJ-C）

返事を待ってる。　よろしく	【返信要求】【依頼の終結】

例11 TJ-M）

お願いしますね。	【依頼の終結】

【返信要求】

【返信要求】は相手に返信を求めることにより、早急にインタビューの実現を目指すストラテジーであると考えられる。しかし、JJ では 43%しか用いられておらず、TJ の使用（64%）の方が上回っていた。これについては、一方的に依頼をするメールでの返信要求は、返信を強要するようでしにくいとの意見を JJ から得ている。さらに、JJ の使用例を見ると、「お返事待ってます（例 12）」のように普通体から丁寧対にスピーチレベルがシフトしているものが見られた。跡部（2006）では、親しい友人関係で普通体が基調のメールであっても、相手に依頼や要求などをする文では、丁寧体にスピーチレベルがシフトされやすいと述べられている。これは、Brown&Levinson（1987）が「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」の１つとして挙げた、＜敬意を払う（Give deference）

＞というストラテジーの使用であると捉えられる（跡部 2006）。日本語Eメールの書き方』(2005) にも【返信要求】は用いられている。しかし、相手に一方的な依頼や要求をするメールにおいては、【返信要求】の使用には注意が必要になるということが言えるであろう。

例12 JJ-G)

では、お返事待ってます♪	【返信要求】

例13 TJ-M)

ひろみちゃんの返事を待ってるね。	【返信要求】

4.3 終了部

図2を見ると、JJでもTJでも終了部での挨拶表現はあまり用いられず、【署名】だけで終わらせるものが多くなっていることが分かる。しかし、TJの一部（14%）であるが、例12のように【感謝】を用いるものが見られた。日本語では、相手から依頼の承諾を得るまで感謝表現は用いられない。承諾前に感謝表現を用いると、依頼を承諾してもらうことが前提という依頼を押し付けるイメージを与える危険性があり、注意が必要であろう。尚、タイ語では依頼の最後に“ขอบคุณมาก（ありがとう）”のような感謝表現を用いることから（宮本 2004）、これはタイ語から翻訳しての使用と考えられる。

例14 TJ-M)

お願いしますね。どうもありがとう。	【依頼の終結】【感謝】

5 まとめと今後の課題

以上、親同等への依頼メールにおけるJJ、TJの談話展開の特徴について考察した結果を表に示したものが、次の表2である。表中のTJの網掛け部は、TJが注意を要する項目を示す。表中の○は各々が50%以上使用していた項目、△は1～49%、×は全く使用されていなかった（0%）の項目を示す。

表 2:展開のまとめ

	談話展開の下位類型	JJ	TJ
開始部	宛名	○	○
	挨拶	○	○
	近況伺い	○	○
	近況報告	△	○
主要部	依頼の展開	依頼予告 ↓ 事情説明 ↓ 依頼 ／ 事情説明 ↓ 依頼	依頼予告 ↓ 事情説明 ↓ 依頼
	依頼に関する情報提供	△	△
	依頼遂行の手筈 ・都合伺い	○	○
	依頼遂行の手筈 ・日時指定	×	△
	依頼の終結	△	○
	返信要求	△	○
終了部	感謝	×	△
	署名	○	○

本研究は、被験者数も少なく対象者も大学生と限られているため、一般化までには至らない。しかし、今後ますます需要が伸びるであろうメールでのコミュニケーションにおいて、摩擦の原因となり得る要因を特定し、学習者に注意を促すことにより、日本語教育への一助になれば幸いである。

今回は紙幅の都合上、最初のメールの談話展開についてのみ述べたが、摩擦を生じさせる要因にはそれ以降の展開や用いられる表現にも原因があり、また、依頼の相手による違いも見られる。さらに、依頼の相手による違いについては、親疎・上下関係の異なる場合の考察も必要である。これらの点についての考察は、別稿に譲りたい。

＜参考文献＞

跡部千絵美 (2006)「友人宛てのパソコンメールをデータとしたスピーチレベルシフト分析―スピーチレベルの認定基準作成を中心に―」『表現研究』83号、pp. 23-33

猪崎保子（2000）「『依頼』会話にみられる『優先体系』の文化的相違と期待のずれ-日本人とフランス人日本語学習者の接触場面の研究-」『日本語教育』104 号、pp. 79-88

太田一郎（2001）「パソコン・メールとケータイ・メール-「メールの型」からの分析-」『日本語学』Vol. 20-10、pp. 43-53

柏崎秀子（1995）「談話レベルで捉える丁寧さ—談話展開が丁寧度評定に与える影響」『亜細亜大学日本文化研究所」第 1 号、pp. 61-75

————（2004）「発話意図の理解過程における談話展開構造の役割の検討—展開パターン分析と実践的活用の模索—」『実践女子大学文学部紀要』第 47 集、pp. 97-105

加藤奈津子（2004）「手紙文の話題展開と接続表現-学生の誤用例を通じて-」『日本語と日本語教育』33、pp. 59-83

熊谷智子（1995）「依頼の仕方-国研岡崎調査のデータから-」『日本語学』Vol. 14-11、pp. 22-33

蔡胤柱（2005）「日本語母語話者のＥメールにおける『断り』-『待遇コミュニケーション』の観点から-」『早稲田大学日本語教育研究』7 号、pp. 95-108

笹川洋子（1994）「異文化間に見られる『丁寧さのルール』の比較-九言語比較調査データの再分析から-」『異文化間教育』8 号、pp. 44-58

佐竹秀雄（2005）「メール文体とそれを支えるもの」橋元良明編『講座社会言語科学 2　メディア』ひつじ書房、pp. 56-68

ザトラウスキー・ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析-勧誘のストラテジーの考察-』くろしお出版

シンハウォラサップ・パラタポーン（2007）「依頼場面における『感謝』発話の日・タイ対照研究-親しい上下・同等関係の会話データの分析-」大阪外国語大学大学院修士論文

橋元良明（2001）「携帯メールの利用実態と使われ方-インターネットによる E メール利用との比較を中心に-」『日本語学』Vol. 20-10、pp. 23-31

_____（2003）「電子メディア社会の言語行動」『朝倉日本語講座 9　言語行

動』北原保雄監修　荻野綱男編、朝倉書店、pp. 174-193
パブリツカ・ナタリア (2006)「日本語とポーランド語における依頼表現の対照研究―日本語教育の視点から―」大阪外国語大大学院修士論文
堀江・インカピロム・プリヤー (1995)「依頼表現の対照研究-タイ語の依頼表現-」『日本語学』Vol. 14-11、pp. 76-83
三井久美子 (1998)「日本語の依頼におけるストラテジーの相互交渉―フレームの明示化／非明示化との関わり―』平成10年度大阪外国語大学修士論文
宮崎玲子 (2006)「日本語母語話者とタイ人日本語学習者の電子メールにおける依頼-依頼の展開を中心に-」『国際シンポジウム『日本語教育の諸問題』報告書』第2号、pp. 22-31
――――― (2007)「電子メールにおける依頼の展開構造-日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対照研究-」『日本語・日本文化研究』第17号、pp175-184、大阪外国語大学日本語講座
宮本マラシー (2004)『手紙とEメールにおけるタイ語表現法』大阪外国語大学
築晶子・大木理恵・小松由佳 (2005)『日本語Eメールの書き方』The Japan Times
賴美麗 (2005)「依頼における「お詫び・謝罪型」表現に関する考察-日本語母語話者と台湾人日本語学習者を対象に-」『早稲田大学日本語教育研究』第6号、pp. 63-77
李佳盈 (2004)「電子メールにおける依頼行動-依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対照研究-」『言語文化と日本語教育』28号、pp. 99-101
Brown, P. and S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage.* Cambridge, Cambridge University Press

『マヤの一生』における人間と動物との交流

ティンナパス　パーハニット
(チュラーロンコーン大学 文学部修士課程 日本文学研究科　M2)

1.　はじめに

日本の児童文学において、動物を素材にした作品は数少なくない。そのような作品の中で、擬人化されて人間のように言動できる動物もいれば、自然の法則にもとづいたままの動物もいる。擬人化された動物は人間と自由自在に交流できるが、現実の動物の場合、人間と交流するのは言葉という障害もあり、通じずに誤解が生じる時もあるだろう。

しかし、動物も人間も登場する作品では両者の交流が欠かせない要素である。そして、児童文学研究者の横谷輝は「生物学的にいって、人間も動物の一種であることを考えるとき、そこになんらかの交流が生じるのは自然の理というものであろう。」と述べている。それをきっかけとして考えた場合、人間と動物との交流にはどんな方法があるか、さらに、その交流がどんな意味で使われるか、人間と動物との交流にもとづいた『マヤの一生』を対象として考察してみたいと思う。

2.　『マヤの一生』について

『マヤの一生』（大日本図書、一九七〇年）は動物児童文学作家である椋鳩十によって描かれた戦後の作品である。また、一九七一年にはこの作品が第一回赤い鳥文学賞、児童福祉文化奨励賞を受賞し、一九九六年にアニメ映画化された。その上、財団法人大阪国際児童文学館によって日本の子どもの本１００選（1946 年～1979 年）として選出され、今にいたっても愛読されているものである。

次には作品の内容1を紹介したい。

「マヤ」は、生まれてまもないころ、熊野の狩人から鹿児島の「わが家」まで送ってもらった熊野犬である。ほんとうに美しい目をした子犬で、「私」たち家族にとてもかわいがられたが、なかでも次男との交流が最も強かった。やがて家族の一員に加わったひよこの「ピピ」、ねこの「ペル」も「マヤ」にリードされ、わが家は、まさに「マヤ」を中心に楽しく、のびやかな暮らしぶりであった。

ところが、第二次世界大戦が勃発し、昭和十八年になると、農村でも食糧が不足してきた。戦争がさらに激しくなるにつれて、「私」のまわりからも戦死者が続出し、さらにはきびしい食糧事情のために、飼い犬はすべて殺されることになった。「私」は嘆願書を出したりしてこばみつづけ、子どもたちも「非国民」との汚名にじっと耐えた。

しかし、ある日の「私」の外出中、「マヤ」はついに引き立てられ、次男と三男に「マヤ」をつないだナワを持たせたままで、その脳天に太い棒の一撃が加えられた。子どもたちは四十度のショック熱にうなされ、「マヤ」は夜を待って息もたえだえにわが家にたどりつき、愛する次男のげたにあごをのせたまま、冷たくなってしまう。

3. 人間と動物との交流

動物文学が世界の児童文学の典型の一つだと考えられることはいうまでもない。なぜ、動物の主人公を持つ作品は世界の子どもたちの間に読まれているのか。フランスの児童文学者のルネ・ギヨはその疑問について、「子どもは、おとなたちのなかにはいっていくよりも、動物のなかにはいっていくほうが、

---

[1]阿部真人、『椋鳩十文学の研究』、大日本図書、１９８４年

ずっと安心がいくからである」[2]と述べている。また、子どもは、どうして人間の世界よりも、動物の世界のほうにより安心をおぼえるのか。このことについて、横谷輝は次のように答えた。「子どもが純粋な存在であり、その意味で動物ともっとも近似な存在であるということ、したがってそこでは、人間と動物の交流が、なんの抵抗もなしにおこなわれるからであろう。」3

では、『マヤの一生』における人間と動物とが交流する場面を分析してみた後、次の三−1と2の項目においてその交流の方法を検討していくことにする。

3.1. 人間から動物への交流

人間から動物に交流する方法は次の三つに分けられる。

1. 言葉

2. 身振り

3. 心

この三つの交流の方法は以下の例のように表現されている4。

(例)

1. マヤを、オリからだすと、

「ボクにかして.....」

「ボクのほうが先だ。」

---

[2]横谷輝　『横谷輝児童文学論週１』の第四節「少年動物文学の過去と未来」（１９７４年)

[3]2と同じ。

[4]すべての引用された例は椋鳩十『マヤの一生』大日本図書（２００５年)による。

と、おたがいに、子犬を、両手の上にのせたり、
ひざにだいたり、ほおずりをしたりするのでした。

身振り (P. 19)

2. 犬という動物は、人間の心の中に、とけこんで生きている生きものだ、と、わたくしたちは、思ったり、犬という動物は、考えてみると、ほんとに、ふしぎな動物だなあ、と、感じたりするのでした。
マヤの、こうした生き方をみていると、わたくしたちは、心から、いとおしくなってしもうのでした。

心 (P. 40)

3. 「バカ！バカ！マヤのバカ！」

言葉

次男は、外で、いじめられてきた、くやしさを、マヤに、やつあたりにあたって、こぶしで、パカパカと、マヤの頭をこづくのです。 (p. 43) **身振り**

4. 「おい、マヤ、食べろ！」次男は、マヤの前にしゃがんで

言葉

いいました。
マヤは、次男のいうことなら、なんでも聞く犬でした。
(p. 52)

5. オカユの中から、まだ、形の残っている、カボチャなどが出てくると、子どもたちは、ニコニコして、それを手の上にのせるのです。そして、土間のマヤのほうに行くと、
「それっ！」

言葉

といって、マヤの前にさしだすのです。

身振り

（中略）

そういうことをする子どもたちに、「犬も人間も、同じ分量で分けてやってあるので、自分がもらった分は、自分で残らず食べなさい。」

と、よく、わたくしは、こごとをいうのでした。

すると、子どもたちは、いうのでした。

「ボクたちは、がまんできるけど、マヤは犬で、がまんできないもの……」と、とがめるような顔つきでいうのでした。

心 (p. 56)

3.2. 動物から人間への交流

一方、『マヤの一生』において動物から人間へ交流する方法も三つあるが、人間から動物への場合とは同様ではない。1の項目と違った方法が一つあり、動物が言葉でなく音声によって人間と交流していることである。よって、動物から人間への交流の方法は次のようである。

1. **音声**
2. **身振り**
3. **心**

この三つの交流の方法は以下の例のように表現されている。

（例）

1.　（マヤは）子どもたちが絵をかいたり、本でも、読んでいると、そのそばにいって、からだをこすりつけて、遊んでくれというように、鼻をならすのです。

身振り　　**音声**　(p. 34)

2.　（マヤは）ひとりでいるのがさびしいようでした。

朝から人の顔さえ見れば、座敷に上がらせてくれというように、鼻を鳴らしたり、吠えたてたりするのでした。(p. 37)

音声

3. 次男の好きなマヤは、次男の足音を、はっきりと聞きわけて、次男の帰ってくるときには、とくに、大きな鳴き声をたてるのでした。　**音声**

この次男は、また、なき虫で、よく、しくしくなきながら帰ってきました。

犬という動物は、かなり、こみいった、人間の心がわかるのか、そんなときは、マヤは、次男に、ぴったりと、よりそって、

心＋身振り

ウォー

ウォー

と、いうような鳴き声をたてるのでした。(p. 42)

音声

4.　（マヤは）ものすごい顔で、キバをむいて、近づいたら飛びかかろうとするのです。　**身振り**

おまわりさんたちが、ちょっと、動いただけでも、かみつこうとするのです。(p. 86)　**身振り**

5．夜になるのを待って、消えようとする命の火をかきたて、かきたて、幼い日からの思い出のある、わたくしの家に、ようやくの思いでたどりついたのです。

心

そして、愛する次男のいおいのするげたをみつけ、愛するものの、においをかぎつつ、息をひきとっていったのです。

心　(p. 93)

4.　交流と「マヤ」の存在

三－1と2の項目において引用された例を見ることにより、人間と動物が交流する場合、一つもしくは、二つの方法を用いる時もあれば、すべての方法を用いる時もあり、さらに、人間と動物の区別をする考えによって行われることが分かる。

ところで、『マヤの一生』における動物の主人公である「マヤ」は前述された例の通り、人間と交流すればするほど、飼い主である次男とその家族の間で認められると共に、「マヤ」の立場と役割が作中の別の動物より勝り、人間のような存在に扱われるようになる。

『マヤの一生』には登場人物である人間と動物との交流があるだけでなく、作者と読者とが交流するところも隠されている。それは「わたくしたちは、ほんとに、マヤを家族の一員を考えて、長いあいだ、いっしょに、暮らしたのでした。そのマヤも、人間と同じように、戦争のもたらす、暗く悲しい運命からのがれることができませんでした。マヤのことを考えると、ほんとうに胸が、キリキリと痛むのです。」という椋が戦争に対する視点を前書きに表しているとおりである。このように、この作品の主題はもちろん戦争批判であろう。椋の言葉を分析してみた後、彼は動物の主人公である「マヤ」を戦争批判と平和運動の代表として利用することというメッセージを子どもたちの読者に伝えようとしていることがわかる。ここでは、またルネ・ギヨの言葉を借り、「子ど

もは、おとなたちのなかにはいっていくよりも、動物のなかにはいっていくほうが、ずっと安心がいくからである」と述べているように、子どもたちの読者は動物である「マヤ」と人間との交流を通じて椋のメッセージを受け取ることで安心できるのであろう。そういうわけで、『マヤの一生』における人間と動物との交流は椋の戦争に対する感情を「マヤ」に移入するプロセスとして使われているはずである。

人間が相互に交流しそこなったことに基づいた戦争のせいで、人間と動物との交流も、それを通して愛情と友情までも全部途切れてしまった。「マヤ」の息が絶える前にマヤが次男と最後の交流しようとした場面は、読者を非常に感激させ、人間ばかりでなく動物さえも戦争の悪影響を得る悲劇的な結末である。それゆえ、『マヤの一生』における人間と動物にとって交流しあう最大の壁は戦争ではなくてなんであろう。

5. おわりに

本稿では、人間から動物へ交流する方法も動物から人間へ交流する方法も三つあることを示した。人間の場合は言葉、身振りと心であるが、動物の場合は音声、身振りと心である。つまり、人間と動物との交流は言語と非言語で構成され、椋鳩十の作品の特色だと言ってもよい。最後に、筆者はタイ在住で、必要な先行研究を取得するのはまだ限界があり、この研究にも欠陥があると思っている。しかし、今後とも人間と動物との交流に関する椋鳩十の他の作品を、特に愛玩犬が主人公であるものを中心に研究し続けたい。

参考文献

阿部真人（1984）『椋鳩十文学の研究』大日本図書

阿部真人・阿部雅子（1994）『日本の動物文学』溪水社

鳥越信（2004）『たのしく読める読める日本児童文学[戦後編]ミネルヴァ書房
三宅興子・島式子・畠山兆子（1992）『新版　児童文学-はじめの一歩』世界思想社
横谷輝（1974）『横谷輝児童文学論集１』偕成社

日本語の Wh 感嘆文

山寺由起（大阪外国語大学大学院　日本コース　M2）

1　はじめに

感嘆文に関する数少ない先行研究では以下のような位置づけが与えられている。尾上(1986)は「なんて空が青いのだろう」という表現を、疑問文が「不透明な事態を明らかにしようとするその姿勢の中に、結果として感動を実現する」として、文の種類としての感嘆文から除外している。同様に阪倉(1993)でも「あれからもう七年になるか！」などの咏歎表現は、疑問表現の周辺として論じられているが、「なんて汚いヤジだろう」のように不定詞が用いられると、疑問表現から遠ざかると述べられている。仁田(1991)では、「発話・伝達のモダリティ」の下位的タイプとして「働きかけ」「表出」「述べ立て」「問いかけ」の 4 タイプが設けられているが、「感嘆」については「言表事態めあてのモダリティに属する付加的な副次的なものであると思われるが、正確な位置づけは今後の課題」とされている。益岡(1991)は表現類型として「演述型」「情意表出型」「訴え型」「疑問型」「感嘆型」の 5 つを認定し、「感嘆型」をさらに「詠嘆系」と「驚嘆系」に分けている。安達(2002)は、「文末の名詞性」によって感嘆文を特徴づけている。文末の名詞によって感嘆の気持ちを表現するという規定は、山田文法の述体と喚体の区別につながるものであると指摘している。本稿は、安達(2002)の「文末の名詞性」を感嘆文の重要な特性として捉える。

2　分析対象

安達(2002)は、感嘆文を「ある物が持っている属性によって引き起こされた驚きをともなった感動を表出する文」と規定し、感嘆の気持ちを引き起こす属性を「感嘆の誘因」、その気持ちを託される名詞を「感嘆の中心」と呼んでいる。話し手の感動や驚きを表すための様々な手段があるが、それらを一括して扱うと感

嘆文の重要な一般性を見逃すとして、分析対象を以下の(1)に限定し、(1a-c)を文末名詞による感嘆文、(1d-e)を「何と」による感嘆文と分類している。本稿は、感嘆文の文タイプの分析を主な目的としているので、構造的に文として成り立っている(1d-e)を分析する。

(1) a. きれいな音！ [「…属性[実質名詞]」型感嘆文]

b. 作品一一一の無茶苦茶な速さ！ [「～の…[形容詞-さ]」型感嘆文]

c. この主題のきれいなこと！ [「～の…属性[こと]」型感嘆文]

d. …南仏の自然は何と優しく恵まれているんだろう、と思った。 [ノ系感嘆文]

e. その子音の多彩な種類を、ビルスマはなんと豊富に身につけていることか！ [コト系感嘆文]

(安達(2002)より抜粋、(1b-e)の出典はp.8)

3 感嘆文の特性

3.1 何と

感嘆文の成立要件の一つとして、「何と（何て）」が挙げられる。感嘆文においては属性表現を強調する副詞のような働きをしているが、安達(2002)や阪倉(1993)にも指摘されているように、元は疑問文などに用いられる不定代名詞[1]である。他の「誰」「いつ」「どこ」などの不定代名詞ではなく「何」が用いられるのは、感嘆文がある属性を持った「もの」や「こと」について叙述するためであると推察される。以下の(2)と「何と」を落とした(3)を比較されたい。(3)はいずれももはや感嘆文としては機能していない。以上の観察から「何と」が感嘆文において欠かせない働きをしていることがわかる。

(2) a. なんて美しい女性だろう—ちょっとしたしぐさがあなたを変える

(千宗室 1981)

b. きょうはなんてうんがいいんだろう

（宮西達也 1998）

c. 少女用の海水着の買物がなんと私の心を奪ったことか！

（堀辰雄 1933）

(3) a. # 美しい女性だろう—ちょっとしたしぐさがあなたを変える

b. # きょうはうんがいいんだろう

c. # 少女用の海水着の買物が私の心を奪ったことか！

3.2 文末名詞句

感嘆文成立のもう一つの必須要件として文末名詞句が挙げられる。古語においていわゆる体言止めや連体形止めの技巧が詠嘆を表すことから、名詞句が感嘆文の中核的な意味を担っていると考えられる。以下の例を参照されたい。(4a)は「よろしさ」という名詞で、(4b)は「なし」の連体形「なき」で文が終止している。このような体言でまとめた文は山田文法の「喚体の句[2]」に当たる。

(4) a. 酒の名を聖とおほせし古への大き聖の言のよろしさ　（万葉・三三九）

b. 夏草の露分け衣着けなくに我が衣手の干る時もなき（万葉・一九九四）

（阪倉(1993)より引用）

では、(2)で示した現代の感嘆文をもう一度見てみよう。いずれも文末に名詞を有しており、それらがないと感嘆文として機能しないことは自明であろう。

(5) a. なんて美しい女性だろう—ちょっとしたしぐさがあなたを変える

b. きょうはなんてうんがいいんだろう

c. 少女用の海水着の買物がなんと私の心を奪ったことか！

さらに(6)の例によって感嘆文における文末名詞句の必然性が支持される。文末に名詞句がなければ、単なる驚きを表す文になる。ここで用いられている「なん

と」は「驚いたことに」と言い換えられることから文修飾の副詞であり、感嘆文に用いられる属性表現を修飾する副詞とは異なるものであることを付記しておきたい。

(6) a. 英語が出来ないのになんとニュージーランドに永住してしまいました

http://blog.yahoo.co.jp/nonbirikurasu

b. そして、真っ暗な洞窟の中を行くと、なんときれいな浜辺に辿り着きました。

http://www5e.biglobe.ne.jp/~poshin/diary%20extra%203.htm

ここである疑問が思い浮かぶ。「何と美しい」を許容する話者がいることだ。筆者は、この場合の「美しい」は終止形であるとは考えていない。イ形容詞の場合は、形式上、終止形と連体形の区別がないが、ナ形容詞で「そんな馬鹿な」「何と姑息な」という表現が用いられることから、現代においても古語の連体形止めの名残があると考えられる。「何と美しい」を許容する話者は、上記の表現の場合と同様に「美しい」を連体形で読み込んでいるのだろう。よって、感嘆文は名詞句またはそれに相当する連体形を必要とするといえる。

3.3 普遍的特性

以上の観察から日本語の感嘆文は英語の感嘆文(7a)とWh句と名詞句を用いる点で共通していることがわかる。また、(7b)のウルドゥー語[3]は括弧に訳した日本語と同じ語順であるが、「kyaa」はYes-No疑問文では文頭で疑問のマーカーとして、Wh疑問文では疑問詞の「何」として用いられ、感嘆文では「何と」に相当する意味機能を果たす。その他の多くの言語を観察せずに結論づけることはできないが、Wh句と名詞句が感嘆文の普遍的な特徴である可能性がある。

(7) a. <u>What</u> <u>an attractive woman</u> she is ! (Elliott 1974)

b. yeh <u>kyaa</u> acchaa <u>larkaa</u> hai ! (松村 2000)

（この子は何といい少年か。）

（下線と日本語訳は筆者による。）

4　疑問文との相違点

4.1　文末名詞句

感嘆文はしばしば疑問文の周辺的な位置づけをされるが、両者に明確な相違点があることを論じたい。感嘆文において文末名詞句が欠かせないことは既に述べた通りだが、疑問文ではそれは必須ではない(8a,c)。

(8) a. 九寨溝はきれいですか。

b. 九寨溝は何ときれいなのか。

c. 太郎は古い携帯を使っていますか。

d. 太郎は何と古い携帯を使っていることか。

4.2　補文

もう一つの相違点は補文として埋め込めるか否かである。以下の例で明らかなように、疑問文は埋め込めるが、感嘆文は不可能である。[4]

(9) a. 花子はどこに留学しましたか。

b. 私は花子がどこに留学したか知らない。

(10) a. 花子は何と英語が堪能なのか。

b. *私は花子が何と英語が堪能なのかわかった。

5　不定代名詞を含む文タイプ

不定代名詞は疑問文だけでなく、譲歩文にも用いられることが三原(1994)に指摘されている。上述したように、感嘆文にも現れる。では、これらの文タイプにおいて不定代名詞がどのような働きをしているのか考えてみよう。まず、疑問文

(11)は、阪倉(1993)によると、「A がこの頃何かを読んでいる」ということを前提とした上で、問いを発している。その問いの中心の不定代名詞「何」は、「1, 2, 3, …n」という不特定のものを表し、相手がnに該当するものを答える。

(11) Wh 疑問文

A 君はこの頃何を読んでいますか。　(阪倉 1993)

次に、本多(2002)は、譲歩文に用いられる「も」は累加の意味を表し、(12a)の譲歩文は、一般的な知識として認識されている(12c)の条件文に、それに反する事態の(12a)が累加される形で成立し、(12a)は(12b)と等価な命題であると主張している。譲歩文で表される事態は、その実現において尤度[5] (Likelihood) が最小の事態である。本多(2002)では譲歩文としか記されていないが、次に見る別の種類の譲歩文と区別するため、このような譲歩文を仮に選択譲歩文と呼ぶことにする。

(12) 選択譲歩文

a. 食べなくても太る。

b. 食べても食べなくても太る。

c. 食べれば太る。　(本多 2002)

本多(2002)では取り上げられていないが、譲歩文には不定代名詞を用いるタイプもある。筆者の分析によると、(13)は不定代名詞「何」がn個の事態を表し、「A があっても、B があっても、C があっても、・・・」と不特定の数の事態を並列し、後件の事態が起こる尤度が高く不変的であることを主張する文である。不定代名詞を用いるこのような譲歩文を Wh 譲歩文と呼ぶことにする。

(13) Wh 譲歩文

何があっても、広子は冷静だ。

最後に、感嘆文について考察する。感嘆文において用いられる「何と」の「と」は、「ゆっくりと」「たっぷりと」などのように、副詞に付く「と」と同様のものであると考えられる。感嘆文では、不定代名詞「何」が不特定の**n**を表し、その不特定さにより計り知れないほど大きいことが示唆されている。つまり、不特定多数を示す「何と」が属性表現を修飾することで、あるものが持つ属性が際立つ。このように、「不定代名詞+属性表現+名詞」の構造を有する感嘆文を**Wh**感嘆文と称する。

(14) 何ときれいな人か。

興味深い例として、「何」の部分に具体的な数値が入った表現がある。この場合の「ごまん」は、一般的には「五万」という漢字が当てられているが、本来の語源は「巨万」で、「ご」は「巨」の呉音であるという説もある。いずれにせよ、数が非常に多いことを示している。

(15) 偽のブランド品は世の中にごまんとある。

6　終わりに

本稿では、「何と」と「文末名詞句」を用いるタイプの感嘆文を観察し、それらを構造上の振る舞いが異なることから疑問文と区別した。そして、不定代名詞を用いる文タイプとして**Wh**疑問文、**Wh**譲歩文、**Wh**感嘆文を挙げ、不定代名詞の特性を基に、それぞれの構造について考察した。今後はこれらの観察に基づいて、理論的に感嘆文の統語・意味構造を分析していきたい。

注

[1]日本語のいわゆる疑問詞は疑問だけでなく、譲歩や存在数量詞、普遍数量詞としても機能するため、不定代名詞と呼ばれている（Kuroda 1965）。尾上(1983)は「不定語」、阪倉(1993)は「不定詞」、安達(2002)は「疑問詞」とそれぞれ呼んでいるが、ここでは「不定代名詞」という用語を用いる。

[2]山田文法でいう「句」とは、文の要素としての単位で、これが運用されて体を成したものが「文」であるが、一般的に言われる「文」にほぼ相当するものと捉えられている（阪倉 1993）。

[3]本来は主にアラビア文字を基にしたウルドゥー文字で右から左に表記されるが、ここではわかりやすくするため左から右へアルファベットで示した。

[4]「私は花子が何と英語が堪能なのかと思った。」のような例は、引用の「と」によって接続されているだけで、「か」は補文標識としては機能しておらず、単文の構造のまま埋め込まれている。

[5]尤度（関数）は主に統計学で用いられる用語で、尤もらしさの度合い（確率）を表す。

参考文献

安達太郎（2002）「現代日本語の感嘆文をめぐって」『広島女子大学国際文化学部紀要』第10号

尾上圭介（1983）「不定語の語性と用法」渡辺実（編）『副用語の研究』明治書院

尾上圭介（1986）「感嘆文と希求・命令文－喚体・述体概念の有効性－」松村明教授古稀記念会（編）『松村明教授古稀記念　国語研究論集』明治書院（尾上圭介（2001）に再録）

尾上圭介（2001）『文法と意味Ⅰ』くろしお出版

阪倉篤義（1993）『日本語表現の流れ　岩波セミナーブックス45』岩波書店

仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

本多久美子（2002）「譲歩文と条件文：譲歩文の最小尤度解釈とupward-scaleの導入について」日本認知科学会第19回大会論文集

益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版

松村耕光（2000）『ウルドゥー語基本文法』大阪外国語大学

三原健一（1994）『日本語の統語構造－生成文法理論とその応用－』松柏社

三原健一（2004）『アスペクト解釈と統語構造』松柏社

Elliott, Dale (1974) Toward a grammar of exclamations. *Foundations of Language 11*
Kuroda, S-Y. (1965) *Generative Grammatical Studies in the Japanese Language.* Ph.D. Dissertation.
Pesetsky, David and Esther Torrego (2001) T-to-C Movement: Causes and Consequences. In M. Kenstowicz (ed.) *Ken Hale: A Life in Language.* MIT Press.
「くろご式慣用句辞典」http://www.geocities.jp/tomomi965/index2.html

例文出典

奥本大三郎 (1999)『博物学の巨人　アンリ・ファーブル』集英社新書 (1d)
佐々木節夫 (1999)『古楽の旗手たち』音楽之友社 (1e)
千 宗室 (1981)『なんて美しい女性だろう—ちょっとしたしぐさがあなたを変える』主婦と生活社
堀辰雄 (1933)『麥藁帽子』四季社
宮西達也 (1998)『きょうはなんてうんがいいんだろう』鈴木出版
吉田秀和 (1983)『世界のピアニスト』新潮文庫 (1b,c)
「秦国日記　第3回『トラン・モバイル日記』」
http://www5e.biglobe.ne.jp/~poshin/diary%20extra%203.htm (2007/02/02)
「Yahoo! Japan ブログ　英語が出来ないのになんとニュージーランドに永住してしまいました」
http://blog.yahoo.co.jp/nonbirikurasu (2007/02/02)

補助動詞構文における(非)限界性と格の標示
～テアル構文の分析を中心に～

浦木貴和（大阪外国語大学大学院　日本コース　D2）
依田悠介（大阪外国語大学大学院　日本コース　D1）

1　はじめに

本稿では、補助動詞構文、とりわけテアル構文に着目し、そのアスペクト性と格標示の問題について検討し、次の二点を明らかにしたい。

(1) a. Depraetere(1995)で提示されたアスペクトに関わる二つの概念、限界性（(a)telicity）と有界性（(un)boundedness）の観点から日本語の補助動詞構文の考察を行い、補助動詞構文（テアル構文）においても、両概念は区別されるべきものであることを明らかにする。

b. 日本語の格標示の問題、とりわけテアル構文において可能であるガ格・ヲ格標示といった格の優位性について考察する。

まず次節において、Depraetere(1995)における限界性と有界性についての紹介を行い、アスペクトに関わる両概念について明らかにすることからはじめる。

2　Depraetere1995

Depraetere(1995)は、これまで研究者による用語の違いとして捉えられてきた、アスペクトに関わる二つの概念、すなわち、(非) 限界性（(a)telicity）と（非）有界性（(un)boundedness）が、峻別するべきものであると主張している。[1]

(2) a. (非) 限界性(a)telicity：その文で説明されている状況が内在的もしくは意図的な終点（endpoint）を持つか否かを扱う概念。

[1] 同様の考察としてDeclerck(1991)がある。

b.（非）有界性(un)boundedness：説明された状況が時間的な有界点(temporal boundary)に達したか否かについて言及する概念。

(2) の定義において理解されるごとく、限界性とは動詞自体に内在する、語彙的アスペクトの概念として捉えられている。以下による例を見られたい。

(3)　限界性による分類[2]

a. 弾が的にあたった。[+telic]

b. 裕代が倒れた。　[+telic]

c. 太郎がハンガーにコートを掛けた。[+telic]

d. 裕代は建築会社で働いている。[-telic]

e. 裕代は京都に住んでいる。[-telic]

(3ab) では「あたる」「倒れる」という動詞が示す行為は、それぞれ弾があたった瞬間、裕代が倒れた瞬間に完了するということからも分かる通り、本質的な限界点を持つと言える。すなわち、あたった瞬間、倒れた瞬間にその出来事が限界点（endpoint）に達するのである。また（3c）では、太郎が自らの意志でハンガーにコートを掛ける、という行為を表しており、動作主による意志的な行為が終わった段階が動作の限界点であると考えられ、限界的な動詞であると考えられる。

一方、(3de) で取り上げられている「働く」「住む」という動詞は、現実の出来事においてその行為が完了する時点は、事実上存在すると思われるが、それはあくまでも現実世界をどのように捉えるのかという問題に帰結するものであり、これらの動詞自体が内在的、意志的な限界点を持っているわけではない。構文上に何らかの限界点を指し示すような副詞句などが生起しない限り、少なくとも理屈の上では永遠にその動作を続けることは可能になる。従って、これらの文は限界性を持たない動詞（[-telic]）であると考えられる。

では、(非) 有界性についてはどうであろうか。以下の例文を見られたい。

(4)　有界性による分類

---

[2] 例文は筆者による作例。

a. 私は悠介に5時に会った。[+bounded]

b. 亜紀子は一時間の間公園で遊んだ。[+bounded]

c. 直之は1991年から1998年までバンコクに住んでいた。[+bounded]

d. 啓太はパンガン島に住んだことがある。[+bounded]

e. 千尋は大連に住んでいる。[-bounded]

f. 正史は今、推理小説を書いている。 [-bounded]

g. 広美はいつも近所の公園で遊ぶ。 [-bounded]

(4a～d) は「会う」「遊ぶ」「住む」といった限界性を持つ動詞と限界性を持たない動詞が混在している。もちろん、「会う」という動詞自体は限界性を持つ動詞であり、「私」が「悠介」にあった瞬間に限界性に達すると言える。しかし後の二つの動詞「遊ぶ」「住む」は、先述したとおりに見ていくならば、これらは非限界である。これらの文に共通する点は、時間を表す副詞句の介在である。(4a) では、「5時に」、(4b) では「1時間の間」、(4c) では「1991年から1998年まで」、といった時間を表す句が生起しているのに注目されたい。これはそれらの文が表している出来事がどの時点で完了したのか、という実際上の時間的な完了時点を表している。また (4d) ではたしかに時間的な完了時点を表す句は生起していない。しかしながら、この例文では過去の経験を表す「ことがある」という構文になっている。これは過去のある時点においてある出来事が完了したことを示すものである。従ってこれらの文は、その説明された状況が実際の時間的な完了時点に達していることを示しており、有界的な文であると考えられる。本論考では、この完了時点を有界点 (temporal boundary) と呼ぶことにする。

(4e～g) は、(4a~d) までに見たような有界点を表すような時間副詞も構文も生起しておらず、動詞自体も限界性を持たないため、非有界事象であると捉えられる。(4e~f) は、発話時点において、その行為が継続中であることを示しており、また (4g) では、継続中の行為は表していないものの習慣的な出来事について言及する文であり、有界的な事象であるとは考えられない。

このように見た場合、状態動詞「ある／いる」といった動詞類をどのように捉えるべきなのかどうか、という問題が考えられる。これは通常の先行研究などでも明らかにされているように、時間的な有界性を持たず、また動詞自体にも本質的な事態の終了を含意するものではありえないので、非限界動詞[-telic]であると考えられる。

3　テアル構文における限界性と有界性

3.1　テアル構文の記述的特徴

テアル構文について、一般的に知られている基本的な特徴として、意図的な動作や好意が行われた後の対象（Theme）の状態を表すこと、次に対象名詞句をガ格で標示する「ガ格型」とヲ格で標示する「ヲ格型」の２種類があること、が挙げられる。

(5)　ガ格型

a. 机の上に本が置いてある。

b. 玄関に花が活けてある。

c. 庭に桜の木が植えてある。

d. 部屋の入り口に名前が書いてある。

e. 井戸水の入った桶にスイカが冷やしてある。

f. 怪我をした部分に包帯が巻いてある。

(6)　ヲ格型

a. 銀行にお金を預けてある。

b. 次の試合の先発メンバーを選んである。

c. 山の景色がよく見えるように、邪魔な壁や木を取り払ってある。

d. この絵は戦争の悲惨さを表現してある。

e. 授業が始まるまでにテキストを読んである。

f. 次の大会に備えてマラソンコースを走ってある。

このように見てくると、ガ格型、ヲ格型のテアル構文の特徴には次のような

ことが言える。

(7) ガ格型テアルの一般的特徴

a.視覚で捉えられる対象の状態を表す。(益岡 1987)

b.具体的な動作主を文中に明示できない。(*太郎が机の上に本が置いてある。[3])

c.文中に現れない潜在的な動作主は一人称(「私/僕」)であってはならない。

d.自動詞とは共起できない。(「*大空が飛んである/*家が建ってある」)

(8) ヲ格型テアルの一般的特徴

a.結果の状態が必ずしも視覚で捉えられる必要はない。(益岡 1987)

b.何かの目的のために行った動作・行為の結果(「準備的動作」)を表す。(吉川 1976、森田 1989)

c.具体的な動作主を文中に生起できる。

d.動作主は一人称であってもかまわない。

e.非能格自動詞4とも共起しやすい。

3.2 テ形動詞の限界性とテアルの有界性

テアル構文を限界性と有界性という観点から見た場合、次のような問題がある。一般的な傾向として、限界性を持つテ形動詞(telic verb)はガ格型に生じやすい(=5a~c)が、限界性の有無によってガ格型とヲ格型を明確に分けられるわけではない(5d~f)。

(9) a. 銀行にお金を預けてある。

b. 部屋の明かりを消してある。

c. テーブルが拭いてある。

d. 床が磨いてある。

---

[3] この場合の「太郎が」のガは主格のガ格であり、いわゆる総記解釈のガではない。この意味において非文である。

[4] 意図的な動作主を主語にとるタイプの自動詞。「走る/座る/行く」など。

実際のところ、(9ab) では限界動詞でありながら、ヲ格を生じており、(9cd) では非限界動詞でありながら、ガ格を生じている。これについて益岡 (1987) では次のように指摘している[5]。まず、ガ格型というのは「或る対象の視覚で捉えられる状態の存続を、その状態をもたらしたと考えられる行為に結び付けて記述するタイプ。」であり、ヲ格型というのは「動作主が引き起こした行為の結果もたらされる事態が、何らかの意味で基準時に関与するタイプ。「結果相」を表わすとされる表現形式が示す代表的な意味の一つ」であるとしている。

本稿では、益岡が挙げた格標示の違いが生じる原因について、動詞の限界性の観点から次のように考える。多くの限界動詞ではその限界点への到達を視覚で捉えられることから、視覚によって認識可能な限界動詞が生じると、対象のガ格標示がされやすい。また非限界動詞であってもその限界点への到達が視覚で認識可能な場合はガ格型が可能になる。つまりガ格型は何らかの状態変化が視覚で捉えられる発話現場に依存したタイプであり、「発話現場依存型」とも呼ぶべきものであるということである。一方ヲ格型は、基本的には意図的な動作や行為を表す動詞類であれば共起可能であり、ある事態が終了の有界点に達し、その効果が発話時点において一定の効果が保持されていることを表す「発話時点依存型」と呼ぶべきものであるということである。

位置変化及び状態変化の動詞類と共起するテアルでは「発話現場依存型」(ガ格型) であるのに対して、対象に変化を生じない動詞類の場合は「発話時点依存型」(ヲ格型) である。

またこの時、テ形動詞の限界性は対象の格標示に影響を与えやすいが、有界性を表す副詞句は格標示に影響を与えない。

(10) a. テキスト {*が／を} 10 ページまで読んである。

b. 1 時間の間英語 {*が／を} 勉強してある。

c. 警備のため、3 年間番犬 {*が／を} 飼ってある。

---

[5] 益岡はテアル構文について、ガ格型をA型、ヲ格型をB型と規定し、それぞれに 2 つずつの下位分類を行った上で、ガ・ヲ両方可能な「中間型」があるとして合計 5 つのタイプを認めている。

二つ目の問題点として、対象が消失するタイプの動詞類「消す／食べる」などでは、ガ格型が容認できるものとそうでないものがある点が挙げられる。

(11) a. 部屋の明かり｛が／を｝消してある。

b. ラーメン｛*が／を｝食べてある。

(11a) では、「部屋の明かりが消えている」状態が視覚で捉えているのに対して、(11b) では、「ラーメンが食べられた」状態を視覚で捉えることは困難であると思われる。テアルにおいてどのようなテ形動詞を選択するのか、というのは話者の百科事典的知識に基づいて行われていると考えられる。ある一定の状態が「食べた」結果として存在しているのかどうか、というのは話者の感覚と直接結び付けにくいことによる。

「発話現場依存型」には状態動詞「ある」の本動詞としての意味が色濃く残っている。一方「発話時点依存型」では「ある」の本動詞としての意味が残っておらず、出来事の完結した後の段階が発話時点にあることを表す、いわゆるパーフェクト用法である。

従って、「ある」の中に本来の意味である状態性が読み込めていると仮定するならば、非有界事象 (unbounded event) であるといえる。一方状態という解釈が読み込めないとすれば、それは有界事象 (bounded event) であるといえる。

4　格標示に関する類型論的考察

世界の言語には形態的な格標示を持つ膠着語と、形態的な格標示を持たない孤立語が存在することは、これまで多数の文献において述べられている。

(12) a. 日本語

象は　鼻が　長い。

b. 中国語

大象　　鼻子　长。

elephant　nose　long

'An elephant has long nose.'

c. タイ語

Chaaŋ　ŋuaŋ　yaao.

elephant　nose　long

'An elephant has long nose'

形態的格標示を持つ言語における名詞句と動詞句の意味関係は、それぞれの格マーカーによって、明らかにされる。この様な形態的な格標示を持たない言語における文法関係は、通常語順によって文法関係が決定されており、タイ語の様な形態的格を持たない言語話者にとっては、日本語のように形態的格を持つ言語の格マーカーのシステムは非常に難解であると考えられる。

だが、日本語などの膠着語における格の配列はある特定の規則にしたがっていると考えることが可能である。

5　格に対する二つのアプローチ

これまでに、日本語の格助詞に対するアプローチとしては、以下のような2つのアプローチがとられてきた。

(13) a.　構造依存のアプローチ

b.　格関係依存のアプローチ

生成文法理論における主流は、格を構造的に導き出すことである。生成文法理論においては、名詞句と格との関係は言語普遍に存在するとし、それぞれの言語の名詞句に対して以下のように規定している。

(14)　音形を持つ名詞句は(抽象)格を与えられていなければならない。

言い換えれば、すべての名詞句は格を持つと述べている。これを踏まえ、日本語においては、規範的な格配列は、以下のような形式であると言われている。

(15) a.　ガ型

b.　ガーヲ型

c.　ガーニ型

d. ニーガ型

e. *ニーヲ型

ここで、本論に戻るが、本稿では、構造依存のアプローチと、格依存のアプローチにおけるそれぞれの理論的優位性を求めることは目的としていないので、以下では、その両者を簡単に概観するにとどめることとしたい。

5.1. 構造依存のアプローチ

まず構造依存のアプローチであるが、その内容を簡単に述べれば、時制文(TP)において、ある要素が名詞句に対して、格を一致するということである。

(16) a. T > NP[Nom]

b. V > NP[Acc/Dat]

c. P > NP[Obl][6]

これを日本語の格関係に置き換えれば、

(17) a. ル/タ(時制) > NP[ガ格]

b. (語彙的な)動詞 > NP[ヲ格/ニ格の一部]

c. 後置詞(ガ/ヲ/ニの一部以外の助詞) > NP [抽象的格]

と考え、bottom-upの統語構造により、そのそれぞれの認可子[7] (Cheker) と被認可子(Chekee)の間の関係が充足された段階において、照合されるとする。

5.2. 格関係依存のアプローチ

つづいて格の相互関係に依存したアプローチについて概観する。この枠組みでは、形態的な格標示を持つ言語における格マーカーは以下の規則に従い固有格から順に配当されるとされており、日本語におけるそれぞれの格は以下のように通常規定される。

---

[6] 以下では生成文法理論の慣習にのっとり、時制を担う要素をTとし、動詞をV、名詞をN、前(後)置詞をPと表記する。

[7] 本稿では一致を誘発し、未活性要素を活性化させる要素を、便宜上認可子と呼び、その活性化を受ける要素を、便宜上被認可子と呼ぶ。

(18) a. 固有格　ニ格

b. 依存格　ヲ格

c. デフォルト格　ガ格/ノ格

まず、固有格については、固有格は、動詞句とある特定の意味関係を持つ名詞句に対して与えられる格であり、固有格が文中において最初に付値される。

(19) a. 土曜日に太郎は学会に行った。 (Goal)

b. 父の日に宏は娘に時計をもらった。(Source)

c. 勝にアラビア語がわかる。 (Experiencer)

d. 先生は生徒の不正に気付いた。 (Theme)

つづいて、依存格であるヲ格は、最初に与えられた、ニ格の付与に付随して与えられる。つまり、上位に格の与えられていない格に依存することにより、ヲ格は無標の名詞句の階層上下位にある名詞句に格が与えられると考えられる。

さらに、デフォルト格については、ヲ格の付値が終了した段階で、格標示を受けていない格に対して与えられると考えられている。

6　補助動詞構文(テアル構文)における格の標示—結語にかえて—

浦木 2006 によれば、V テアル構文における格標示にその構文が表しうる意味により、二つの格標示のパターンが存在するとする。

(20) a. N が V テアル (「発話現場依存型」)

机の上に本**が**おい**てある**ことに気がついたかい?

b. N1 が N2 を V テアル (発話時点依存型)

太郎**が**ビール**を**冷やし**てある**ことを知っていた?

このことを格関係依存のアプローチからの観察を行うと以下の議論となる。それぞれの V テアルの構文に対し、浦木は (20a) の文は動作主に主眼がなく、おかれている本の状態に注目した文であるので、動作主が顕在的に文中に存在する必要性がないと述べている。(状態読み) また、(20b) については、ビールを冷やしたという事象を所持する事象の行為者として、太郎が文中に生起す

る可能性があると述べている。(いわゆるパーフェクト用法)

よって、(20a) においては、顕在化しない動作主である、名詞句には格が与えられないため、時制文内部において、無標の名詞句である本に対して、デフォルト格のガ格が付値される。その一方 (20b) においては事象の開始者としての太郎が顕在的に文中に存在する必要があるので、ヲ格はこの段階では無標の名詞句である太郎より構造上下位に存在する名詞句であるビールに対して付値される。そして、最終的に残った名詞句である、太郎にたいして、ガ格が付値されると考えられる。

【参考文献】

青柳　宏　2006　『日本語の助詞と機能範疇』　ひつじ書房

浦木　貴和 2006　「テアル構文に関する考察」　『日本語日本文化研究　第 16 号』　大阪外国語大学

奥田靖雄 1977「アスペクトの研究をめぐって」『教育国語』53・54 (『言葉の研究・序説』に採録)

工藤真由美 1995『アスペクト・テンス体系とテクスト－現代日本語の時間の表現－』ひつじ書房

田中　寛　2004　『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』　ひつじ書房

角田 太作 1991『世界の言語と日本語-言語類型論から見た日本語』ひつじ書房

益岡隆志 1987『命題の文法－日本語文法序説－』　くろしお出版

三原健一 2004『アスペクト解釈と統語現象』(松柏社)

森田良行 1989『基礎日本語辞典』　角川書店

吉川武時 1976「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』(金田一春彦編) むぎ書房

内丸裕佳子 2006　『形態と統語構造との相関～テ形節の統語構造を中心に～』筑波大学未刊行博士論文

Chomsky, Noam 2001 "Derivation by Phase" H. Lasnik eds *in Step by Step: Essays on Minimalist Syntax in Honor of Howard Lasnik.* MIT

Depraetere, Ilse 1995 "On the necessity of distinguishing between (un)boundedness and (a)telicity" *Linguistic and Philosophy 18*

Li, C. N. and S. A. Thompson. 1981 *Mandarin Chinese:A Functional Reference Grammar*. University of California Press.

Marantz, Alec 1991"Case and Licensing" *ESCOL 91*

Smith, Carlota 1991 *The Parameter of Aspect* Kluwer Academic Publishers

『平家物語』と『源平盛衰記』における「巴御前」の表象形態の解析

カナパット　ルーンピロム
（チュラーロンコーン大学　文学部修士課程　日本文学研究科　M3）

1　はじめに

軍記物語の中の登場人物といえば、まず、戦場で活躍している男の武士たち、戦争で悲劇的な生活を送っている女たちが考えられているのではないだろうか。ところが、実は源平の合戦で大活躍をする男性のような役割と、妻、母等社会的な女性の役割とを兼ね備えた女も描かれている。両方の役割を果たしながら、戦争による困難な人生を生き抜いたその女は『巴御前』である。

まず、巴御前の生涯について述べたいと思う。巴は平安末期から鎌倉時代までの女武者、木曽義仲の乳母の夫の中原兼遠の娘、義仲の四人の家来である、木曽四天王といわれた今井兼平と樋口兼光の妹である。では、義仲がどのように巴に出会ったのかというと、義仲が二歳の時、源太義平に父の義賢が殺された後、畠山重能と斎藤別当実盛のはからいで義仲は木曽の豪族の中原兼遠に託され、将来大将軍になるように大事に養育してもらった。巴は幼い頃から信濃国の木曽の深い山で義仲と一緒に育てられたと同時に、義仲、兄たちと同様に武術を身につけたのではないかと考えられる。二十七歳の義仲が以仁王の平家追討の令旨を受けた際、巴も主君義仲、四天王と一緒に源平合戦に出陣したと伝えられている。倶利伽羅峠の合戦で平家に対する勝利を得た義仲は都に入ったが、ただその後平家追討に失敗し、都の習慣にも慣れず、都人に見下された。それに、後白河院の信頼も得られなくなった。その後、後白河院に対立し、義仲反乱事件が起こった故に、鎌倉にいる頼朝が義仲追討に義経と範頼を派遣した。義経の攻撃によって義仲の軍勢が減少しつつある中、巴は敵を討ち取り、義仲は最期まで生き残っている。巴は義仲のために最後まで戦って一所で死ぬ

つもりだという意志を持っていたものの、義仲に落延びろと命じられたので、戦場から立ち去った。巴の後日譚は巴ゆかりの地に様々な伝説として残されている。

巴は代表的な女性の一人として『覚一本』の平家物語にも、『源平盛衰記』にも描かれているが、それぞれの物語に相違点が多いということから、二つの軍記物語に現れている巴像を比較して、それらに時代背景とどのように関連しているのかを研究したいと思う。具体的には外観、武術の能力、二つの軍記物語における地位の違い、性格の四つの点について二つの軍記物語における巴御前の表象形態を比較したいと思う。

2　外観

2.1　容姿

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
あ、 「中にも巴はいろ白く髪ながく、容顔まことにすぐれたり。」	ア、 「生年廿八、身ノ盛ナル女也。」

『覚一本』には肌、髪、顔立ちの美しさ、巴の容貌がかなり詳しく描かれ、容姿に対しては理想的な女性と言えるだろう。一方、『源平盛衰記』には容姿に関しては一切触れられておらず、年齢と女盛りであるということのみが描かれている。女盛りという言葉から、巴が身体的にも、精神的にも、充実している時期であったということが分かる。巴がどのように美しいのかは描写されていないが、女の最も美しい年頃であったということが分かる。

2.2　装束と武具

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
あ、 いくさといへば、札よき鎧着せ、大太刀、強弓もたせて、まづ一方大将にはむけられけり。 い、 其後物具ぬぎすて、東国の方へ落ちぞゆく。	ア、 「萌黄糸威ノ鎧ニ、射残シタリケル鷹羽の征矢負テ、滋籐弓真中取、葦毛馬ノ太逞ニ、小キ巴摺タ鞍置テ、乗タリケル武者、一陣ニ進テ戦ケルガ、…（中略）…」 イ、 「巴ハ都ヲ出ケル時ハ、紺村紅ニ千鳥ノ胄直垂ヲ着タリケルガ、関寺合戦ニハ、紫隔子ヲ織付タル、直垂ニ、菊閉滋クシテ、萌黄糸威ノ腹巻ニ袖付テ、五枚甲ノ緒ヲシメ、三尺五寸ノ太刀ニ、二十四指タル真羽ノ矢ノ、射残タルヲ負、重籐ノ弓ニセキ弦カケ、連銭葦毛ノ馬ニ、金覆輪ノ鞍置テゾ乗タリケル。七騎ガ先陣ニ進テ打ケルガ、何トカ思ケン、甲ヲ脱、長ニ余ル黒髪ヲを後ヘサト打越テ、額ニ天冠ヲ当テ、白打出ノ笠ヲキテ、眉目モ形モ優也ケル。」 ウ、 「粟津ノ軍、終後、物具脱捨、小袖装束シテ信濃ヘ下リ、女房公達ニ角ト語リ、互ニ袖ヲゾ絞りケル。」

『覚一本』には（あ）巴の装束と武具は詳しく描写されていないが、男武者と同様堂々としている表象が与えられている。注目したいのは「札よき鎧着せ」すなわち「義仲は巴に札のよい鎧を着せ」というところである。それは義仲と

巴の親密な関係を示しているのではないだろうか。ただ、その親密な関係が主従、それとも男女恋愛の関係なのかという問題点は次の項目で分析したいと思う。なお、(い) 巴が義仲のため最後の戦として御田の八郎師重と必死に戦い、頸を切り、鎧と甲をぬぎ、東に立ち去ったというところから、装束描写は当時の人物の感情、事柄の意味合いに関わっていると見られる。いわゆる、鎧と甲ぬぎとは巴が義仲の命令のため、一所で死ぬつもりという意志を止むを得ず諦めたという感情を表わしている上に、戦場で巴の最後の任務が済んだということを象徴しているのだろう。その結果、義仲の武士としての巴の表象が終わったと言えるだろう。なお、東に立ち去るというのは何のために行くのかは明らかに描かれていないが、東、すなわち頼朝が陣営している鎌倉で、巴がもはや義仲の武士ではなく、以前とは違う人生を送る、巴像の変化を暗示しているのではないかと思われる。そうすると、この点は『源平盛衰記』の巴の後日談と合致しているだろう。

『源平盛衰記』には『覚一本』より装束と武具が詳しく描写されている。巴の直垂、鎧、矢、弓、馬、鞍、と順番に一部ずつの装束と武具が描写されている。『平家物語ハンドブック』によると、「装束の材質や色は、それを身につける人の身分、年齢、嗜好を表している…中略…萌黄縅や緋縅は、若武者や壮年期の武者が好んで、着用した。」ということから、『源平盛衰記』に表れている巴の装束は逞しく堂々とし、若い女武者であることが分かるだろう。なお、関寺の戦いで、「イ」の「何トカ思ケン、甲ヲ脱、長ニ余ル黒髪ヲ後ヘサト打越テ、額ニ天冠ヲ当テ、白打出ノ笠ヲキテ、眉目モ形モ優也ケル。」に注目して考慮した結果、男武者と女武者の表象が統合されていることが分かった。いわゆる、最初に男武者のように装束描写が提出されたものの、その後、冑を脱ぎ、長い黒髪を後ろにたらしていることおよび、顔立ちも姿も優しくなったということから、男性性は強い巴を表すために描き加えられると思われる。では、髪をたらした巴にはどんな意味があるのだろう。

内田家吉が遠くから巴の全体的な格好を見て、女か童かと問いかけた。当時

の巴の格好はどちらかというと、男武者ではなく、女武者か童だと内田は考えているのだろう。その点を見ると、おそらく巴はわざと女武者だと見せたがったので、髪をたらしたのではないかと推測できるだろう。なぜなら、郎等が女だと答えた時に、内田はすぐに義仲の女武者である巴のことだと分かったからである。このことから、敵の中で巴の大評判が非常によく知られた存在であった事が窺われる。

源(2005)は巴の天冠と白打出ノ笠の象徴について分析した。天冠は舞楽、あるいは騎射の行事などの際に用いる冠というわけで、巴の芸能的性格を象徴する意匠であり、一方、白打出ノ笠は『義経記』に描かれた男装としてのものなので、巴の男性性を象徴しているというのである。

要するにこの場面においては巴の装束には男性性、女性性、芸能的な性格が含まれていると窺われる。しかしながら、上述のように女武者である巴の女性性が敵の目に留まったことで、女性性が最も目立っているのではないかと思われる。

注目したいのは義仲が最期に「ウ」巴が物具を脱ぎ捨てた上に、小袖を着ていることである。「物具を脱ぎ」とは『覚一本』に描かれているように巴の戦場での任務が済んだことを示している。ただ、『覚一本』に描かれていない、巴が小袖を着ているとは果たしてどのような意味があるのだろうか。そのために、細川(1989)の論考を挙げたいと思う。細川(1989)は「日常の服装である小袖つまり、女性の平服を着ることで女性の性に戻ることを強調している。」と説いた。だが、義仲の死をその妻子に伝えたり、義仲の遺言にしたがい後世を弔ったりしているのは巴にまだ男性としての役割が残っていたからではないだろうか。したがって、小袖が女性の性に戻ることを強調しているとは言いがたいだろう。小袖は上述の義仲の遺言にしたがって、地元での新たな巴の任務と同時に、巴の後日談として、頼朝の命令によって鎌倉へ行かされ、和田義盛の妻、朝比奈の母という新たな地位を得、いわゆるこれから社会的な女性的な役割を果たすことを示唆しているのではないだろうか。

要するに巴の外観としては『覚一本』では男性性と女性性が明らかに区別されている。すなわち、女性性は容姿描写に、男性性は装束と武具描写に反映されている。『源平盛衰記』では女性性と男性性が不明瞭で、女性性は女盛、および髪をたらしたことから、男性性は白打出ノ笠等の装束、武具描写から見られる。言い換えれば、『源平盛衰記』では巴の表象に男性性と女性性が一つに統合がされていることが明らかになった。

3　武術の能力

平家物語　（覚一本）	源平盛衰記
あ、 「ありがたき強弓精兵、馬の上、かちだち、打物もッては鬼にも神にもあはうといふ一人当千の兵者なり、窮境のあら馬乗り、悪所おとし、いくさといへば、札よき鎧着せ、大太刀、強弓もたせて、…（中略）…度々の高名肩をならぶる者なし。」 い、 「巴その中へかけ入り、御田の八郎におしならべて、むずととッてひきおとし、わか乗ッたる前輪におしつけて、ちッともはたらかさず、頸ねぢきッてすててンげり。」	**一、畠山重忠との戦い** ア、 「「射モ強切モ強、馳合々々責ケルニ、指モ名高畠山、河原ヘサト引テ出、」 イ、 「重忠十七ノ年、小坪ノ戦ニ会い初テ、度々ノ戦ニ合タレ共、是程軍立ノケハシキ事ニ不合。」 ウ、 「畠山、巴強チニ近ク廻合、是タル便宜ト思、馬ヲ早メテ、巴女ガ弓手ノ鎧ノ袖ニ取付タリ。巴叶ハジトヤ思ケン、乗タル馬ハ春風トテ、信濃第一ノツヨ馬也、一鞭アテ、アヲリタレバ、胄ノ袖フツト引切テ、二段計ゾ　延ニケル。」 エ、 「是ハ女ニハ非ズ、鬼神ノ振舞ニコ

	ソ、加様ノ者ニ、箭一ツヲモ射籠レテ、永代ノ恥ヲ不可残、引ニ過タル事ナシトテ、」 **ニ、内田三郎家吉との戦い** オ、 「是ハ強弓精兵、アキマヲ数ル上手、岩ヲ畳、金ヲ延タル城也共、巴ガ向ニハ不落ト云コトナシ、去癖者ト聞召テ、鎌倉殿、彼女アヒ構テ虜ニシテ進ベキ由、仰ヲ蒙タリ、巴ハ荒馬乗ノ大力、尋常ノ者ニ非ズト聞、イカスベキ、ト思煩ケルガ」 カ、 「女、唯強、百人ガ力ニヨモ過ジ。家吉ハ六十人ガ力アリ。殿原三十余人。既百人ニアマレリ。殿原、左右ヨリ寄テ、左右ノ手ヲ引張レ。家吉、中ヨリ寄テ、ナドガ巴ヲ取ザラン」 キ、 「主ハ急タリ、馬ハ早リタリ。巴、内田、馬ノ頭ヲ押並、鐙ト蹴合スルカトスル程ニ、寄り合互ニ音ヲ揚、鎧ノ袖ヲ引違、「エタリヤヲウ」トゾ組タリケル。聞ル沛艾ノ名馬ナレ共、大力ガ組合タレバ、ニ疋ノ馬ハ、中ニ留テ働ズ。内田、勝負ヲ人ニ見セント思ガルニヤ、弓箭ヲ後ヘ指廻シ、女ガ黒髪三メグリニカラマヘテ、腰刀ヲ抜出シ、中ニテ首ヲカントス。」 ク、

	「拳ヲ握り、刀持タル臂ノカリヲ、シタカニ打。余リニ強ク被打テ、把ル刀ヲ被打落。…（中略）…弓手ノ肘ヲ指出シ、甲真顔、取詰テ、鞍ノ前輪ニ攻付ツ、内甲ニ手ヲ入テ、七寸五分ノ腰刀ヲ抜出シ、引アヲノケテ首ヲ掻。 ケ、 「和田小太郎が巴を見て、その様子も立派で、他に類を見ぬほど心も強い。このような者を妻にして子供に家系を継がせたいと思った。」

『覚一本』では巴の武術の能力は２つの場面に描かれている。一つ目は義仲最期に（あ）、巴がはじめて登場した場面である。具体的には、強い弓、馬、打物に優れており、上述のように敵の方にも高名な女武者として直接に描写されているということである。二つ目は（い）御田の八郎師重と戦った場面に反映されている武術の能力、大力が発揮されたことである。最後の戦いとして義仲という主君のため、巴は自らのすべての力を使い尽くして御田の八郎と必死に戦った。そこには、互いの名のり、相手とのやりとり、相手の攻撃に対する反応、などは一切描かれずに、最後に御田の八郎の頸をねじって切ってすてるということだけが描かれ、そこから素早く、凄まじい戦いであったことが窺える。それに従って、巴の武術の能力は男武者と肩を並べるほど、あるいは男武者に勝るとも言えるだろう。

『源平盛衰記』は畠山重忠と内田三郎家吉との戦いに分けて述べたいと思う。

❖ 畠山重忠との戦い

義仲と戦い、まだいずれも勝利を勝ち取っていないうちに、重忠は突然三条小河の方へ退いていった。なぜかというと、(ア) 重忠は巴の武術の能力の高さに気付いたからである。それに、(イ) 初めて遭った巴の凄まじい戦いを賞賛する重忠の感情が表されている。その上、(ウ) 重忠は巴の武術の能力の高さをただ目で見ただけでなく、巴と直接戦ったことで、彼女の手腕、力を自覚した。巴の力は『覚一本』の御田の八郎師重との戦いのように十分発揮されていないにもかかわらず、優れている馬をもって重忠の攻撃を脱したことから、彼女の能力が認められたのだろう。それゆえ、馬は武術の能力に対する巴の支え役となっていると言える。注目したいのは重忠のもとを逃れた巴が (エ)「鬼神」と賞賛されていることである。源健一郎氏によると、伝承では重忠が大力で「鬼神」と評判されているそうである。鬼神と評された重忠と巴が同じ「鬼神」と賞賛されているのは大力、優れた武術の能力を強調している表現ではないだろうか。

❖ 内田三郎家吉との戦い

(オ) 戦いに先だって、頼朝に聞かれた内田は優れた女武者として巴の評判を述べた。その評判によって、(カ) 内田は大勢の兵力に巴を取り囲ませる様々な計略を立てていた。それは巴の武術の能力の高さが敵に認められたということを示しているだろう。内田は人生の無常感、恥を感じ、巴と正々堂々と戦うことにした。しかし、内田は巴との勝負を皆に見せたいと思っていて、(キ) 計略をもって倒そうとした。しかし、巴は猛烈に反撃し、内田を殺した。激しい反撃は大力、武術の能力に対する巴の表象を強調し、さらに内田よりも極めて優れていることを示している。

さらに、武術の能力は巴の後日談に大きな影響を与えている要因だと言える。(ケ) 具体的には義仲が亡くなった直後、巴は頼朝の命令によって鎌倉に行き、首を斬られるところを和田義盛が願って妻となった。なぜなら、巴に大力、剛の者である子を産ませ、その子に家系を受け継がせたかったからである。言い換えれば、巴の武術の能力を子孫に受け継がせたかったのだろう。

要するに、武術の能力に対する巴の表象が『覚一本』と『源平盛衰記』の人物描写と、それぞれの戦い方に反映されていることが明らかになった。つまり、この点は二つの軍記物語の共通点なのである。

4　二つの軍記物語における地位の違い

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
あ、 「木曽殿は信濃より、巴、山吹とて、二人の便女をぐせられたり。山吹はいたはりあッて、都にとどまりぬ。」	ア、 「アレハ木曽ノ御乳母ニ、中三権頭ガ女、巴ト云女也。…（中略）…乳母子ナガラ妾シテ、内ニハ童ヲ仕フ様ニモテナシ、軍ニハ一方ノ大将軍シテ、更ニ不覚ノ名ヲ不取。、今井、樋口ト兄弟ニテ、怖シキ者ニテ候」 イ、 「角問ハ、木曽殿ノ乳母子ニ、中三権頭兼遠ガ女ニ、巴ト云女也。主ノ遺ノ惜ケレバ、向後ヲ見ントテ御伴ニ侍」 ウ、 「巴尼トテ、仏ニ奉花香、主、親、朝日奈ガ後世弔ケルガ、九十一マデ持テ、臨終目出シテ終ニケルトゾ。」

『覚一本』における巴の地位は義仲の女武者と便女のみ描かれている。義仲のため必死に戦い、最後に御田の八郎師重の首を斬って捨てたということを見れば、巴は女武者としての地位が極めて目立っていることは疑いない。それに対して、便女という地位は一回しか述べらない。ただし、注目したいのは山吹というもう一人の便女が一緒に現れたことである。義仲にとっては巴を地元か

ら連れ去り、一緒に戦争に直面するほど信用できる、唯一の便女ではない。それによって、巴の便女としての表象が薄くなっているようである。しかしながら、山吹が病気にかかり、都に留まったことから山吹の弱々しいイメージが見られ、巴の表象の色合いが薄くなることはあるまいと考えられる。

『源平盛衰記』には多種多様の巴の地位が描かれている。そこで、巴の地位を義仲が生きている間の地位と義仲が亡くなった以降の地位に分けたいと思う。

義仲の生きている間は、義仲の便女、女武者、乳母子、妾として、義仲中心に描かれている。（ア）前述の地位は敵の半沢によって述べられている。『覚一本』のようにもう一人の便女である山吹のことは一切も語られていない。それに対して葵という女武者が登場する。しかし、実際に戦いに登場したのではなく、ただ敵側によって語られたにすぎない。葵の存在によって女武者としての巴の表象は劣るわけではない。なぜかというと、七騎の内の一騎として生き残り、義仲最期まで必死に戦った巴は砺波山の戦いで打ち死した葵と比較すると、巴の能力のほうがはるかに優れていると思われるからである。さらに、興味深いのは巴の地位に対する敵側からの観点と自分自身の地位に対する巴の観点が違うということである。つまり巴が敵側の内田に名のりをあげる時、（イ）のように巴が他の地位を言わずに、乳母子とのみ述べたのは巴の主観的な観点を反映している。しかも、巴が乳母子という地位に最も強い意識があるということも分かる。「我幼少ノ時ヨリ、君ノ御内ニ召仕レ、進テ、野ノ末山ノ奥マデモ、一ツ道ニト思切侍。」とあるように義仲と別れる時、巴は幼い頃から義仲と一緒に育てられたことをやりとりした。それは兄弟としての絆を深く持っているからだと考えられる。一方、彼女を客観的な観点から見る敵側は巴が並の女ではないと評している。興味深いのは「妾」が強調され、いわゆる巴が義仲の妾だから、敵側の重忠が巴と戦おうとしたのである。このように、巴が自分と義仲の関係を思う時、最初に彼女の頭に出るのが乳母子だというのである。ところが、敵側の重忠にとって、巴は義仲の妾として見られる。

義仲が亡くなった直後から、巴の女武者としての表象は徐々に低下していく。

なぜなら、彼女はもはや戦場での任務を終え、地元にいる義仲の妻子に義仲最期を伝える任務しか彼女にはないからである。特に、地位の大きな変化は巴が鎌倉へ下った時点から起こる。和田義盛の妻、朝比奈の母という、社会的な女性の役割を果たす巴の表象が目立ってくる。（ウ）ただし、巴の最後の地位は和田義盛の妻と、朝比奈の母ではなく、尼なのである。すなわち、主、親、朝比奈のために後世を弔う役を与えられた。ただ、主ということを考えると、2つの意味があると思われる。一つ目は義仲のこと、二つ目は和田義盛のことである。義仲の場合を深く考慮すると、巴はかつて従者として主君の遺言にしたがった、または自分の望みで弔いを行った、と二つの面に解釈できる。このように、巴が尼になった原因は、自分自身の極楽往生のためではなく、自分の全人生の中の大事な人たちの往生を願って、念仏を唱えるためだと言える。

以上、巴の地位については『覚一本』には女武者の地位が強調されている。一方、『源平盛衰記』には義仲が生きている間は義仲を中心にして便女、女武者、乳母子、妾の地位が描かれ、特に、主従の間の深い絆が結びつけている女武者の表象が際立っているが、義仲が亡くなって以降、巴の地位は義仲のではなく、和田義盛の妻、朝比奈の母という他の登場人物と関わっているものに変化したことがはっきりと分かる。

5　性格

5.1　勇気

二つの軍記物語の戦いに巴の勇気が表れている。

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
あ、 「御田の八郎師重、卅騎ばかりで出てきたり。巴その中へかけ入り、」	ア、 「七騎ガ先陣ニ進テ打ケルガ」

『覚一本』には（あ）御田の八郎師重と戦いで、一騎の巴は三十騎の軍隊の中にたちまち駆け入ったと描かれている。『源平盛衰記』には（ア）七騎の先頭を進んで内田の三十五騎の軍勢に戦おうとしていると描かれている。巴は二つの軍記物語に描かれている、一対三十、三十五に戦った、また七騎しか残っていない軍隊にしろ恐れずに進んで戦うということから、巴の勇気が認められる。

5.2　忠義

巴は忠義があるものだと直接に描かれていないが、上述の何ヶ所もの戦い、特に、義仲と別れる際に彼女の忠義がはっきり見られる。

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
あ、 「おのれは、とう、女なれば、いづちへもゆけ。我は打死せんと思ふなり。もし人手にかからば自害をせんずれば、木曽殿の最後のいくさに、女を具せられたりけりなンど、いはれん事もしかるべからずなほおちもゆかざりけるが、あまりにいはれ奉ッて、「あッぱれ、よからうかたきがな。最後のいくさして見せ奉らん」とて」	ア、 「「穴無慙ヤ。是ハ八箇国ニ聞シ男、美男ノ剛者ニテ在ツル者ヲ。被討ケルコソ無慙ナレ。是モ運尽ヌレバ、汝ニ討レヌ。義仲モ運尽タレバ、何者ノ手ニ懸、アヘナク犬死センズラン。日来ハ何共思ハヌ薄金ガ、肩ヲ引テ思也。我討レテ後ニ、『木曽コソ幾程命ヲ生ントテ、最後ニ女ニ先陣懸サセタリ』ト、イハン事コソ辱シケレ。汝ニハ暇ヲ給。疾々落下」 イ、 「我幼少ノ時ヨリ、君ノ御内ニ召仕レ、野ノ末山ノ奥マデモ、一ツ道ニト思切侍。今懸ル仰ヲ承ルコソ、心ウケレ。イカニモ成給ハン処ニテ、道ヲ一所ニ並ベン」

	ウ、 「誠サコソハ思ラメ共、我、去年ノ春、信濃国ヲ出シ時、妻子ヲ捨置、又再不見シテ、永キ別ノ道ニ入ン事コソ悲ケレ。去バ無ラン跡マデモ、此事ヲ知セテ、後ノ世ヲ弔バヤト思ヘバ、最後ノ伴ヨリモ可然ト存也。…（中略）…巴、遺ハ様々惜ケレ共、随主命、落涙ヲ拭ツ上ノ山ヘゾ忍ケル。」

『覚一本』には前述のようにただ便女、女武者としてしか描かれていなかったので、男女の恋愛関係が現れていないということだった。そこで、義仲と一所で死にたいという巴の望みとは男女間の愛情より、むしろ主君に対する忠義を表すものだと考えられる。（あ）主君が戦場に女を連れてきたと言われるのを恐れたわけで、巴はやむを得ずに戦場から立ち去ったことから、主君の名誉を大事にする忠義が見られる。したがって、主君のために戦場で戦うことと、主君の名誉を維持するために戦場から立ち去る行為とは矛盾しているのではないだろうか。いずれも忠義を示しているにせよ、義仲のような大将軍にとって名誉は命より大事なものだということを、巴は自覚しているゆえに、戦場から離脱した。しかし、戦場離脱に先立って、武蔵国で大力の評判がある御田の八郎師重に対する巴の勝利も又主君の名誉となるのではないだろうか。

『源平盛衰記』に（ア）「最後まで女を戦場においたと言われることは恥ずかしい」という義仲の言葉が描かれているところは、『覚一本』と共通している。（イ）では、比較的巴の反応、感情が詳細に描写されている。これはつまり長い間主君に仕えている忠義の上に、義仲と巴の間の深い絆を示している。（ウ）義仲の遺言通りに、信濃にいる妻子に自分のことを伝え、後世を弔うという新たな任務を行うために、巴は戦場から離脱せざるを得なかった。これは『覚一本』と大いに異なると言えるだろう。

以上、義仲と別れる際に、巴の忠義は『覚一本』では主君の名誉を維持することで表され、一方、『源平盛衰記』では主君の遺言通りに任務を果たすことで表されている。

5.3　武士道を貫く

平家物語（覚一本）	源平盛衰記
	ア、 「手綱カイクリ歩セ出ス。去共、内田ガ弓ヲ引ヲ引ザレバ、女モ矢ヲバ不射ケリ。互ニ情ヲ立タレバ、内田太刀ヲ抜ザレバ、女モ太刀ニ手ヲ懸ズ。」 イ、 「女ニ組程ノ男ガ、中ニテ刀ヲ抜き、目ニ見スル様ヤハ有ベキ。軍ハ敵ニ依テ振舞ベシ。故実モ知ヌ内田哉」

『源平盛衰記』における巴と内田三郎家吉との戦いを見ると、武士道に通じる合戦故実が窺われる。具体的には、まず巴と内田が互いに賞賛し、名乗りをあげた。源健一郎氏が「弓箭、太刀（打物）、刀（組討）と順を追うに従って、敵に肉薄していくのは確かである」と述べているように、その順序は巴と内田の戦いにも見られる。（ア）で描かれているように、まず巴が弓を引き、太刀を抜き、敵を攻めようとするが、内田が弓も引かず、太刀も抜かないから、巴は攻め始めることができない。これは巴の敵に対する思いやりを反映していると思われる。結局、鎧の袖と袖が交差させ、互いの武威を測った。ここまでの戦いは武士道に通じる合戦故実に従っていると分かった。いずれもまだ勝負を得られていないところ、内田は皆に勝負を見せたがっているからこそ、巴の髪を

三重に絡ませ、腰刀を首に当て、切ろうとした。内田が相手に勝負を勝ち取らんがために、たくらみで相手を攻撃したのは武士道における故実違反となる。それで、（イ）巴がその過ちを非難し、故実を教える役になった。（イ）を考慮すると、その過ちは二つに分類できる。源(2005)によると、一般的には腰刀は組み落としてからの落馬後、使用できるものなので、落馬する前に、馬上で腰刀を取り出したのは内田の一つ目の過ちだということである。二つ目の過ちは勝負で人目につくために、特に女に対して策略を利用したということである。しかも、巴は戦いにおいては敵の出方によって戦法をかえるという心構えを教えた。それは巴が合戦故実をよく知っている上に、それにしたがって正々堂々と戦おうとしていることを表している。武士道の故実に対する内田の過誤に罰を与えるべく巴は凄まじく内田を攻めて殺した。

6　おわりに

以上『覚一本』と『源平盛衰記』の間の巴像の相違点を見てきた。『覚一本』には男性性と、女性性がはっきり分けられている。つまり、男性性は武術の能力と、武士の服装、そして女性性は容姿に反映されている。又、地位は女武者ということが便女より強調されている。そして、性格に関しては勇気と、主君の名誉を大事にしている忠義という武徳が見られる。したがって、『覚一本』の中の巴像は男武者のような男性性が強調されていると言えるのではないだろうか。『源平盛衰記』には巴の表象は比較的、男性性と女性性が混合している。外面は容貌を注目されず、女盛りであることのみが描かれ、装束は男性性と女性性を同時に表象するものだった。優れた武術の能力は『覚一本』と同じよう描かれている。義仲中心である乳母子、女武者、妾の他に、他の登場人物に対する妻、母、尼という地位も様々に表れている。『覚一本』における勇気、忠義以外、『源平盛衰記』には故実に従って戦うという武士道を貫く性格も見られる。ようするに『源平盛衰記』からの巴の表象は男性性と女性性が混合したものになっていると考えられる。源健一郎氏は「いくさの『故実』に通じた大力とい

う男性性を兼ねそなえ、かつ産み、かつ弔う。武士の家の男たちがこうした理想的な女性が求めることは、現実的かつ切実な欲求であっただろう。」と述べている。それゆえに戦いに明け暮れている時代には、女はおそらく男ばかりに頼ってばかりはいられなかったのだろう。それに、自分自身や、家庭を護り、かつ男を支えられるというような強い女性が期待されていたのではないだろうか。にもかかわらず、妻、母のような女性らしい社会的な役割も果さなければならない。野田(1997)によると、鎌倉時代中頃には父親を中心とした家父長制へと家族制度が移行していったので、家長である男が財産を相続し、その結果、女はイエの後継ぎを産むという役割を課せられるようになっていったということである。大力の子供を産むという役割を負わされるようになった巴の表象は当時の女性の社会的な地位、および役割を反映していることが認められるだろう。以上、巴の表象は当時の理想的な女性の代表なのだと考えられる。

＜参考文献＞

円地文子（1977）『源平乱期の女性』「人物日本の女性史」集英社

梶原正昭（1969）「平家物語の巴」『国文学解釈と教材の研究　11-16 号』学燈学

関口忠男（1992）「平家物語の女性像」『中世文学序考』武蔵野書院

高木信（1994）「戦場を踊りぬける-鎮魂する巴」『日本文学　第 43 巻　7-12 号』日本文学協会編集

野田小百合（1997）「巴像の形成－中世女性論への試み」『玉第 31-34 号』メディアパック

星野綾乃（1989）「平家物語研究-女武者・巴」『国語国文学　第 5-6 号』愛知女子短期大学国語国文学会

細川涼一（1989）『女の中世-小野小町・巴・その他』日本エディタースクール出版部

源健一郎（2005）「巴に求められたもの」『国文学　解釈と鑑賞』至文堂

山田昭全（2004）「平家物語に描かれた女性と仏教」『国文学　解釈と鑑賞』至文堂

いわゆる「詠嘆のモ」について

中尾有岐（大阪外国語大学大学院　日本コース　M2）

1　はじめに

モの基本的な用法は「太郎が来た。次郎も来た」のような事態の「並列」を表すことであるが、モの周辺的な用法の中には、「春もたけなわだ」「用助どんも老いたなあ」「その財布も古くなったねえ」といった並列事態が想定しにくい用法もあり、これらの用法を沼田（1986）は「柔げ」、寺村（1991）は「詠嘆」と呼んでいる。その後の研究では、これらの用法と基本的な並列事態を表すモとの関係が考察されているが、「柔らげ」「詠嘆」とは「並列事態が想定できない」という否定的共通性でまとめられた雑多なものが含まれた用法なのであり、これらは単純に一括して統一的な説明を与えられるものではないと思われる。そこで本稿では、この「柔らげ」「詠嘆」と一括された用法を一旦解体し、この種のモのよりきめ細かな記述をめざすこととする。

2　先行研究

2.1　基本のモ

基本のモとは、定延（1995）で述べられているように、表現される事態（表現事態）と並列する事態（並列事態）を話し手が先行文脈領域に見出す際に用いられるモのことである。

(1)a.　田中が来る。佐藤も来る。

b.　「田中が来るぞ。」「佐藤も来るよ。」

c.　〔田中引退のＴＶニュースを観て家族に〕確か佐藤も引退したはずだよね？

d.　田中も来た。佐藤も来た。

e.　田中も佐藤も来た。

f. うちは、今度の参観日には、（母だけでなく）父も来ます。

g. 田中は油を売った。佐藤も油を売った。

h. 田中は先週から泊まっている。佐藤もさっき車で駆けつけた。

i. 田中は泣きもした。わめきもした。（定延 1995;230,下線は筆者による）

並列事態として想定されるのは、h が示すようなモを含んだ文全体〔田中は先週から泊まっている〕から想定される事態〔佐藤がさっき車で駆けつけた〕であり、言表事態と並列事態の述語が同じ a も、〔田中〕と〔佐藤〕という要素間の並列ではなく、〔田中が着た〕と〔佐藤が来た〕という事態間の並列であると考える。また、c や f のように並列事態が明示されていない場合でも、文脈や状況から用意に想定できる場合もある。このような、並列事態が容易に想定されうる用法を基本のモとして扱う。

2.2 意外のモ

「意外のモ」とは、その文脈において起こりにくい事態がおこったときに使われる用法で、「サエ」と言い換えが可能である。

（2） このカレーの辛さにはインド人も（さえ）びっくりした。

（田野村 1991;83）

（3） 彼は努力してとうとうラテン語も（さえ）理解できるようになった。

（沼田 1994;131）

（4）（大学生、高校生、中学生が受けた試験に）中学生も（さえ）合格した。

（定延 1995;229）

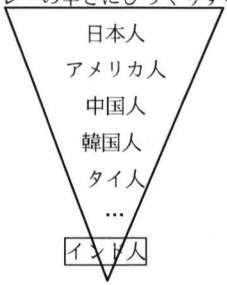
意外のモは、単に予想外の事態が起こった場合に用いられるのではなく、図 1 のように、話し手が事態の発生する可能性に序列関係をみている場合に起こる。

「辛いカレーにびっくりする可能性」が高い日本人、アメリカ人・・・と続き、その可能性の一番低いところにインド人が想定されている。そのため、実現する可能性の低い「インド人がびっくりした」という事態が起こったのならば、それよりも可能性の高い「中国人、アメリカ人、日本人がびっくりする」という事態も当然起こると考えられ、それが並列事態として想定されるのである。並列事態

が想定されるためにモが用いられており、そして可能性の低いことが起こったことに対して意外性が生じているのである。

図 1

カレーの辛さにびっくりする可能性



「そのカレーの辛さにはインド人もびっくりだ」
一番起こりにくい事態が起こった → **意外**

「インド人がびっくりした」なら、
「タイ人、韓国人、日本人もびっくりした」だろう
→ **並列**

本稿でも、「意外のモ」は言表事態と並列事態に「序列」がある場合に成り立つものであると考え、モの一つの用法としての「意外」という用語は、この条件で生じる「意外性」に限り用いるべきだと考える。

2.3 詠嘆のモ

詠嘆のモとして先行研究であげられる例は以下のものである。

（5） 君もばかだなあ。

（6） その財布もずいぶん古くなったねえ。

（7） 今年も終りだなあ。

（8） お前もふけたなあ。

これらの用法を、沼田（**1986**）は実際には他者(並列事態)は存在しないがモによってさもあるかの如く感じられるようになり、モを用いない文よりも間接的な柔げの表現であると「柔らげ」のモに分類し、寺村（**1991**）は「詠嘆」ということば以外には適当な言い表しかたがないような情緒的な効果があると、これらの用法を「詠嘆」と分類している。

「他者が存在しない」や「詠嘆ということば以外に適当な言い表し方がない」と述べられていることからもわかるように、これら「いわゆる詠嘆」用法は「並列事態が想定しにくい」用法であるといえる。その後の研究で、いわゆる詠嘆の

モと基本のモとの関係を言及したものがいくつかあるが、基本のモの派生として「詠嘆」用法を捉える研究には、田野村（1991）、定延（1995）、澤田（2004）等がある。

田野村（1991）では、いわゆる詠嘆用法は「意外のモ」の一種であるという立場にたっている。「詠嘆」はモの働きによるものではなく、表現されている性質によるものだとし、初めに予想や思い込みがあり、その上で予想外の事態を知覚・認識した場合に「詠嘆」という感情が生まれると述べ、「詠嘆」といわれた用法も以下のように解釈できるとしている。

(9) (長イアイダキレイダッタ)その財布もずいぶん古くなりましたね。

(10) (若イ若イと思ッテイタ)用助どんも、老いたな。

(11) (ソンナコトヲスルトハ思ッテモミナカッタ)おまえも因果な人だねえ。

(9)～(11)に「意外性」が感じられるかもしれないが、「意外のモ」のように序列から予想される並列事態を表しているとはいえない。つまり、田野村（1991）ハ「基本のモ」との関係を述べたいがために「意外」という用語を「予想外の事態の生起」全般に広げて用いてしまっているのである。「意外のモ」が表す「意外性」と、「詠嘆のモ」が表す「意外性」は異なるものであり、これでは「詠嘆のモ」と「基本のモ」の関係を述べたことにはならないといえよう。

一方、定延（1995）では、「通念のモ」として、これらの用法を説明している。「通念のモ」とは、現実世界でありがちな事態に関する「通念との類似」に支えられた具体的な事態を表現するためにモが用いられた用法のことである。

(12) 夜もふけてまいりました。〔世の中、時間のたつのは早いものだ〕

(13) 息子も5歳になりました。〔世の中、時間のたつのは早いものだ〕

(14) しかし、坂田もバカなことを言ったもんだねえ。〔世の中、バカは多いものだ〕

(15) しかし、坂田も頭がキレルねえ。〔世の中、頭の良い者は多いものだ〕

確かに(12)(13)においては、時間の流れとともに変化する様々な事態を通念として捉え、その通念から予想される事態が実際に起こった事態の並列事態として想定されていると考えられる。しかし、時間の流れの感じられない(14)(15)にまで

「通念の類似」という観点から説明するのは無理があるのではないだろうか。反対に、仮に時間の流れが関係ないとするのであれば、(12) を〔世の中、更けるものは多い〕、(13) を〔世の中、5 歳になる人は多い〕と (14) (15) と同様に解釈できるはずであるが、実際にはその解釈は成り立たない。つまり、(14)(15) にまで「通念との類似」という概念を持ち込むべきではないと考えられる。

田野村 (1991)、定延 (1995) が「いわゆる詠嘆」用法を一括して扱っているのに対し、澤田 (2004) は「属性付与タイプ」「状態変化タイプ」「属性変化タイプ」の 3 つに下位分類している。これまで一括して扱われていた雑多な用法を 3 つに下位分類したことは大きな意味があると思われるが、この 3 つの用法全ての共通点としてあげているのは、〔意外性＋同類性 (通念との類似)〕、つまり、田野村 (1991) の「意外」と定延 (1995) の「通念との類似」を合わせたものであり、結局は上述したこれら二つの先行研究の問題点が残されたままとなっている。

そこで、本稿では先行研究で「いわゆる詠嘆のモ」とされた用法を一旦解体し、新たな分類をもとに細かく記述していく。

3　並列事態が想定しにくいモの再分類

本稿では並列事態が想定しにくいのモの用法として、定延 (1995) の言う「通念のモ」のうち、時間の流れによる変化を表すさまざまな事態を並列事態とみなす例のみを「時間推移のモ」と定義し、その枠組みで説明できる範囲を示す。また、それとは別のメカニズムで成り立ついわゆる詠嘆のモは「受け止めのモ」と定義し、その内実も詳細に記述していく。

3.1　時間推移のモ

時間の流れによる変化を表すさまざまな事態が並列事態として想定される「時間推移のモ」とは、次のような例である。

(16)　その財布<u>も</u>随分古くなりましたねえ。

(17)　さとしくん<u>も</u>大きくなったなあ。

(16)(17)では、〔自分が年をとった、白髪が増えた、街の雰囲気が変わった〕など様々な時間推移による変化を表す事態が、並列事態として想定される。この用法は時間による変化を表すので、述語は「なる」「老いる」「変わる」など、通念上ありうる自然な時間の経過にともない変化していくことを表す語彙が使われることが多い。

このモの用法をハで置き換えた文と比較してみると、

(18)　その財布もずいぶん古くなりましたねえ。(=16)

(18)'　その財布はずいぶん古くなりましたねえ。

(18)'が、財布だけに焦点をあて財布の変化について述べているのに対し、(18)のモを用いた文は、単に〔財布が古くなった〕ことについて述べているだけとは言えず、変化以前の財布の姿も暗示させ、財布が古くなるまでの時間推移を感じさせる用法となる。「財布が古くなった」というのは、時間推移を感じる一つの象徴的なことがらであり、このとき話者は「財布が古くなった」ということ発話し、それを認識すると同時に過去のある時点(財布が新しかった頃)も思い出し、時間の推移を感じさせる他の事態を並列事態として想定しつつ、時間の推移をしみじみと感じていると考えられる。

この「時間推移のモ」に分類される他の例を以下にあげておく。

(19)　お前も大きくなったなあ。

(20)　君も髪がうすくなったなあ。

(21)　君も白髪が増えたなあ。

(22)　あの町の駅前もにぎやかになったなあ。

「時間推移のモ」にはいくつか条件がある。まず、この用法はいくら変化を表しているといえども時間推移による変化でない場合は用いられない。

(23)　お前の髪も白くなったなあ。(白髪になった)

(24)#[1]お前の髪も茶色くなったなあ。(髪を染めた)

ただし、はっきりと変化を表す述語ではない場合でも文脈から時間の経過によ

1　「#」は、基本のモとしては解釈可能だが、並列事態が特定しにくい用法のモとしては読みにくいもの。

る変化を読み取ることのできるものであれば、この「時間推移のモ」は用いられる。反対に、時間推移による変化を表す述語であっても、「時間推移」とみていない場合にはこの種のモは用いられない。

(25) 私ももう７０歳かあ。

(26) (誕生日が来て年齢が 25 歳になったばかりの男が、書類に生年月日、現在の年齢を書くことになり、ついくせで「24 歳」と書いてしまった)
あ、そうか。俺、25 歳か。

(25)では、話し手が「70 歳」であるという事実を再認識し、自分の 70 歳になるまでの時間の流れを思い起こしている。70 歳になった自分（白髪が増えた、体力が落ちた…）とソレまでのこと（髪の毛が黒かった、体力があった）を思い起こしながら時間の推移を感じている。一方、(26)でも年齢を述べてはいるものの、間違ったことに瞬時に反応した発話であり、過去を振り返ったり、時間推移を感じたりしている状況ではないので、この種のモは用いられない。

さらに、現在の発話時と同時に過去のある時点を認識していない場合も、前の段階を知っていなければ時間の推移を感じることができないため、この種のモは用いられない。

(27)＃僕も10 歳かあ。

(28) (親が)この子も10 歳かあ。

(27)で 10 歳の子どもが、「僕も 10 歳かあ」ということがないのも、10 歳の子が赤ちゃんのころである過去のことを「こういうことがあったなあ」と認識するのは難しく、それによる時間推移も感じることができないからだと考えられる。同じ 10 歳であっても、(28)のように親なら「この子も 10 歳かあ」ということができるのは、親が自分の子どもが小さかった頃を認識しており、それを思い出しつつ時間の流れをしみじみと感じることができるからだといえるだろう。

以上のように、「時間推移のモ」は、時間推移の象徴となる事柄を発話するときに用いられ、象徴的な時間推移を表す事態をモを用いて表現することで、その対象に関する過去のできごとも同時に思い出すこととなり、過去のありかたと現在のありかたをモが結び、時間の流れを感じる表現となるのである。モがなけれ

ば、過去と現在を結ぶものがなくなるため時間推移が感じられる表現になりにくい。「時間推移のモ」を図で示せば次のようになる。

【時間推移のモ】

≪発話≫

時間経過の象徴としての事態を認識 ― 過去の思い出・時間推移

3.2 受け止めのモ

「受け止めのモ」とは「時間推移のモ」とは異なるメカニズムによって「詠嘆性」が生じる用法である。「受け止めのモ」はさらに 2 つに下位分類できる。一つは事態を観察した後、または伝聞情報を得た後に対象を意味づけてあらためてかみしめるように受け止めるときに使われるア「観察・伝聞」用法、もう一つは対象の性質にかかわる具体的な知覚体験の後、あらためてかみしめるようにその知覚体験を受け止めるイ「知覚体験」用法である。まずは、それぞれの用法の特徴と例をあげる。

ア. 観察・伝聞

特徴:具体的観察または伝聞情報をもとに、あらためて対象を価値づけ(意味づけ)て受け止める

ア「観察・伝聞」において、「先生も若いなあ」という文であれば、「観察」の場合は(29)、「伝聞」の場合は(30)のような会話が考えられる。

(29) (朝から元気よく走っている 50 歳の佐藤先生を見た。)

A:(もう 50 歳だって言うのに) 佐藤先生も若いなあ。

(30) A : 佐藤先生、もう 50 歳なのに毎朝 3 キロ走ってるんだってー。

B : へえ〜! 佐藤先生も若いなあ。

このように、話者が事態を観察した後でも、伝聞情報を得た後でも、文脈によってどちらの解釈も可能なものがこのア「観察・伝聞」用法である。観察や伝聞による情報を認識(再認識)詞、話者がその事態や対象をあらためて意味づけし受け止める場合にこの種のモが用いられる。そのため、「伝聞」であっても聞い

たことをそのまま繰り返すといった意味づけが行われない場合は(31)のように、このモは用いられない。

(31) A「田中君って、実はけちらしいよ。」

B「へえ〜。田中君｛は／#も｝けちなのかあ。」

また、この用法は名詞述語文でも文脈によればア「観察・伝聞」用法と解釈される。

(32) 彼も作家だなあ。

(33) 彼も男だなあ。

これらの文は単に「彼」が「作家であること」「男であること」を知ったときに発話される文ではない。(32)なら「人から聞いた、本が売っていたなどという情報を得たとき」にはこのように発話されず、(33)も、「女の子だと思っていたら男だった」と知ったときに発話されるわけではない。(32)(33)が発話されるのは、(32)「作家である友達とご飯を食べていたら、急に思いついたように何かメモをかきだした」(33)「男の子の友達が重い荷物を軽々と持ち上げた」という状況である。

つまり、これは「作家」「男」という属性を付与したのではなく、「作家らしい」「男らしい」ということを話者の体験した事態からあらためて意味づけし、その事実を受け止めながら発話している状況であり、その場合に限り名詞述語文において「受け止めのモ」が許容されるのである。以下に、「受け止めのモ」で用いられる動詞、形容詞、名詞それぞれの述語例をあげておく。

動詞 (34) 君も出世したなあ。(おもしろいこと言う、なかなかやる、いい論文を書く、がんばった、苦労した、いい人と結婚した)

(35) 君もよく食べるなあ。(よくしゃべる、よく飲む、よく泣く)

形容詞(36) 君もばかだなあ。(だめ、甘い、おっちょこちょい、鈍感、賢い、涙もろい、頑固だ、せっかち、けち、ご機嫌、しつこい、なれなれしい、熱心だ、元気だ)

名詞 (37) 君もお人よしだなあ。(まだまだ子ども、悪、田舎者、お嬢さん、お坊ちゃん、作家)

(38) 君もおかしな人だなあ。(幸せな奴、おめでたいやつ、変なやつ)

イ．知覚体験

特徴：具体的な知覚体験の後、あらためてかみしめるようにその体験を受け止める

イ「知覚体験」もア「観察・伝聞」と同様に、あらためてかみしめるようにその体験を受けとめる場合に用いられるものである。例えば、ラーメンを食べて噛みしめるように味わいあらためて「おいしい」と感じたときに「このラーメンもおいしいなあ」という場合や、軽そうな友達をおんぶしてみたときその友達が軽いことをあらためて認識したときに「君も軽いなあ」という場合にこのモが使われる。そのため、イ「知覚体験」用法も体験した瞬間の感覚、感情を述べる場合には用いられない。

(39)　(外に出て空を見上げ) #星もきれいだなあ。

(39)のように星を見た瞬間に発話する場合にはこの種のモは用いられにくい。しかし、同じ表現でも次のようにあらためて「星がきれいである」ということを受け止めたという文脈では、この種のモの使用が可能である。

(39)'　(流星群を見に行きずっと空の星を見ながら) 星もきれいだなあ。

イ「知覚体験」用法は、実際に知覚したことを「自分がそう知覚した」とあらためて振り返る場合に用いられるので、「星がきれい」だと感じたその瞬間の気持ちを表現する場合には用いられないが、「自分が『星がきれいだ』と思った」という自分の知覚体験そのものを振り返る場合に用いられる、いわばメタ言語的な表現であるといえる。

このイ「知覚体験」用法の例を次にあげる。

(40)　この店のラーメンもおいしいなあ。(脂っこい、辛い、苦い、甘い、酸っぱい、まずい)

(41)　あの人もきれいだなあ。(資格:きれい、ダサい、おしゃれだ、醜いくさい、いい匂い)

(42)　君も色白だなあ。(色彩：青い、黄色い、赤い、茶色い、真っ赤だ)

(43)　お前も (体重) 軽いなあ。(明るい―くらい、暑い―つめたい、高い―低い、暖かい―冷たい)

ア．観察伝聞とイ．知覚体験の用法をまとめると、受け止めのモが用いられるのは自分の観察や伝言、または直接体験した事柄をあらためて意味づけし、受け止めた場合に発話されるものであるといえる。最後にこの受け止めのモが用いられる過程を図で示しておく。

【受け止めのも】

≪発話≫

ある事柄を認識 → 対象をあらためて受け止める

4　まとめ

本稿では並列事態が何とは想定しにくいモの用法を考察した。これまで統一的に説明しようとされてきた「柔げ」「詠嘆」といわれた例を一旦解体し、新たに「時間推移のモ」と「受け止めのモ」の２つのタイプを提示した。「詠嘆」といっても、その感動、感慨、感嘆する気持ちがおこる過程が同じわけではないため、どういった状況でその「詠嘆」の気持ちが起こるのか、またどのような「詠嘆」を表す用法にモが用いられるのかも異なるのは当然である。今後、「並列事態が想定しにくいモ」の考察範囲を広げ、さらに研究を進めたい。

参考文献

大野晋(1993)『係り結びの研究』岩波書店

尾上圭介(2002)「係助詞の二種」『国語と国文学』Vol.79, No.8

佐久間鼎(1956)『現代日本語法の研究』恒星社厚生閣

佐治圭三(1991)『日本語の文法の研究』ひつじ書房

定延利之(1995)「心的プロセスからみた取り立て詞モ・デモ」益岡隆志・野田尚史・沼田善子編『日本語の主題と取り立て』くろしお出版

澤田美恵子(2004)「いわゆる詠嘆の「も」について－対象の再認識という心的処理－」『日本語文法』4巻2号 日本語文法学会　くろしお出版

澤田美恵子(2006)『現代日本語の「とりたて助詞」』大阪外国語大学大学院博士論文

高橋太郎(1978)「「も」によるとりたて形の記述的研究」『国立国語研究所報告62 研究報告集1』　国立国語研究所
田窪行則・益岡隆志（1992）『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版
立松喜久子（1992）「共感の「も」について」『アメリカ・カナダ大学連合　日本研究センター紀要』15　アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター
田野村忠温(1991)「「も」の一用法についての覚書－「君もしつこいな」という言い方の位置づけ－」『日本語学』10－9、明治書院
寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
仁田義雄（1998）「日本語文法における形容詞」『月刊言語』vol.27 No.3
沼田善子(1986)「第２章　とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社
沼田善子(1994)「その後の「も」－「も」の意味を再考する－」『文藝言語研究. 言語篇』Vol.25, 筑波大学
沼田善子(1995)「現代日本語「も」－とりたて詞とその周辺―」つくば言語フォーラム編『「も」の言語学』ひつじ書房
野田尚史(1996)『新日本語文法選書１　「は」と「が」』くろしお出版
飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版
益岡隆志(2000)「第４章　属性叙述と事象叙述」『日本語文法の諸相』くろしお出版
松下大三郎(1930)『標準日本口語法』(徳田正信編（1997）『増補校訂標準日本語文法』勉誠社)
三井正孝(1994)「<達成>のモ―所謂<柔げのモ>―」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』三省堂
山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』くろしお出版
山中美恵子(1991)「「も」の含意について　その１－「対照集合」「ＥＸＰＥＣＴ値」「内部対照集合」－」『日本語・日本文化』第17号 大阪外国語大学留学生別科日本語学科

日タイ語の感情語とテ形節・thîi 節の意味関係について

ナッティラー　タップティム
（大阪外国語大学大学院　日本コース　D２）

1　はじめに

(1) お会いできて、うれしいです。

(2) ยินดีที่ได้รู้จัก

yindii thîi dâi rúucàk
うれしい　COMP　ことになる　知る
あなたにお会いできてうれしい。

(1) の日本語は、日本語学習者にとって誰でも聞きなれた表現である。同様に (2) のタイ語のこの表現もタイ語学習者にとって初級の会話の中で必ず習う表現である。(1) のような日本語の表現と (2) のようなタイ語の表現には、感情語（うれしい、yindiiなど）を述語とするという共通性が見られる[1]

1　「1」a.会議に遅れて、すみませんでした。
b.よく案内してくれて、有難うございます。
「2」a. khɔɔ-thôot thîi rópkuan khun (ขอโทษที่รบกวนคุณ)
すみません　COMP　邪魔する　あなた
b. khɔɔp-khun thî i maa　yîam rao (ขอบคุณที่มาเยี่ยมเรา)
感謝する　COMP　来る　訪ねる　私たち
［1a b］［2a b］における事態に対する「態度」を表す謝罪、感謝のことばを考察対象から排除する。

上に、下線部の日本語のテ形節とタイ語のthîi節は、原因として意味解釈できるのである。そこで本発表は、(1) と同類の日本語表現と (2) と同類のタイ語表現を別々に分析し、両言語から観察された共通点および相違点についてまとめて述べる。

2　用語の定義

①感情語 (emotive words) :

日本語の場合：うれしい、かなしい、たのしい、さびしい、なつかしいなどのような感情形容詞に限定する。

タイ語の場合：diicay, sǐacay, klûmcay, plɛɛkcay などのような感情動詞。タイ語の感情語は日本語と違って動詞として扱われている。

②時制 (tense) ：テンスのことで発話時を基準にして出来事が過去か現在か、あるいは未来かを示す。

③ムード (mood) ：コト（ことがらの客観的な描写・叙述を表す部分）に対する話し手の主観・主体的 態度を表す（寺村 1979）。

3　日本語の感情語とテ形節の関係について

日本語において、テ形で終る節はテ形節と呼ばれることが多い。テ形節に関する重要な研究は、言語学研究会のグループ (1989) や仁田 (1995) などが挙げられる。特に仁田 (1995) では、テ形節の特徴と成立条件のもっとも詳しい分析である。テ形節の分類として、「付帯状態」「継起」「並列」[2]がある。

---

[2] [3] 自分はそれを何気なく、しゃがんで見ていた。（付帯状態のテ形）。

[4] 娘はにこやかに言って、彼の前から立ち去った。（時間的継起のテ形）。

[5] 電車に跳ね飛ばされて、怪我をした。（起因的継起のテ形）。

[6] 上の子が幼稚園に入って、下の娘がやっと歩き出した頃だった。（並列のテ形）。

しかし、今までの分析の対象は主に動詞述語文に限定され、本発表が取り上げた形容詞述語文に関する研究は管見では見当たらない。そこで、動詞述語文において明らかにされているテ形節の特徴をふまえて、形容詞述語文のテ形節を分析する。

3.1 原因としての意味解釈

(3) a. 神経質なゴリラだったが、いなくなって、さびしい。
b. 彼が一生懸命教えてくれて、うれしい。
c. こんな時間に電話でたたき起こされて、つらい。

「いなくなって」「彼が一生懸命教えてくれて」「こんな時間に電話でたたき起こされて」のテ形節の出来事は、主節で表現される「さびしい」「うれしい」「つらい」を引き起こす出来事、つまり〈原因〉として読み込むことができる。

(4) a. 神経質なゴリラだったが、いなくなったので、さびしい。
b. 彼が一生懸命教えてくれたので、うれしい。
c. こんな時間に電話でたたき起こされたから、つらい。

(3) のテ形節は (4) のように、理由・原因を示す「ので」「から」節にごく自然に転換できることから、テ形節が原因として読めることは間違っていないと考えられる。テ形節が原因を表すには、テ形節と主節の間に〈継起的関係〉が存在することが条件になっている。

ここで、〈継起的関係〉とは何かという意味定義を確認する必要がある。

つまり、継起とは、テ形節で表される出来事が先に生起し、主節で表される出来事がそれに続いて起こる、といった時間的に先行・後続の関係を表すのである。

(5) 「これから、お互い面白い事やって行こうね」なんて言い合えて、うれしい。

(5) において実際では、テ形節「一言い合える」ことは先に生じ、それに続いて主節の「うれしい」という感情が生じてきたのである。人間の感情というものは、自立的に現れるものでなく、何らかの出来事をきっかけにしてそれに引き起こされるものと理解することができる。そのため、前に生じたテ形節の出来事は感情の生起に対して原因として解釈されやすくなる。従って、テ形節と主節の出来事の順序的生起から、時間的先行・後続が読み取れるからこそ、テ形節と主節の間に継起的関係が存在し、意味解釈としてテ形節は原因を、主節はその結果を表すといえる。

まとめI: 「テ形節、主節」は継起的関係にあり、原因・結果として読み込める。

テ形節が原因として意味解釈されるには、テ形節の出来事が主節の出来事に先立って生じなければならないということは、以下のミニマル・ペアの例文で証明できる。
(* は非文であることを示す)

(6) a. それにしても好きなドラマが終って、さびしい。
b. *それにしても好きなドラマがあと一回で終って、さびしい。
(7) a. 子供と離れて、つらい。
b. *明日、子供と離れて、つらい。

(6b) と (7b) のテ形節には、出来事がまだ生じていないことを意味する「あと一回」「明日」という副詞が存在している。そのため、(6b) と (7

b）のテ形節は、主節の出来事の後に生じるという意味になり、本来テ形節が求める実現性（完了）が欠けている。

3.2　テ形節と主節の関係

3.2.1　主節が現在形である場合

前節まで示した文の主節の時制は、発話時と同じ時間を示す現在であった。主節が現在の時制を示す場合、自然な文と不自然な文に分かれる。
（？ は、不自然であることを示す）

(8) a. 日本人も、なんだか久しぶりに会った気がして、なつかしい。
　　b. 友達をうまく励ませなくて、かなしいです。
(9) a. ？自分に向いているものをさがして、たのしい。
　　b. ？一人で原稿を書いて、つらい。

(8ab) のテ形節は完了の出来事を意味しているのに対し (9a b) のテ形節は完了として意味解釈できないことから不自然な文になってしまったのである。主節が現在を表す場合、テ形節が成立するか不成立になるかは、テ形節が持つ内面的な意味、つまり完了か未完了か、によるものである。

3.2.2　主節が過去形である場合

一方、主節が過去の時制を示す場合、文は自然な文になりえる。

(10) a. ？自分に向いているものをさがして、たのしい。
　　b.　自分に向いているものをさがして、たのしかった。
(11) a. ？一人で原稿を書いて、つらい。
　　b.　一人で原稿を書いて、つらかった。
(12) a. ？ルンピニ公園を散歩して、気持ちがいい。
　　b.　ルンピニ公園を散歩して、気持ちがよかった。

(10b) (11b) (12b)[3]において主節が過去を表す場合、テ形節は完了として読み込め、文全体は自然になる。つまり、主節が過去時制になったことによってテ形節が完了として読めるように強制されるのである。

3.2.3 ムードの違い

上記の言語現象は何を意味しているか。それは文のムードが文のあり方を支配するということである。

(13) a. すべての人間関係が崩壊して、つらいです。
b. ？電車の中で朝からこんなかたい本を読んで、つらい。
(14) 電車の中で朝からこんなかたい本を読んで、つらかった。

(13ab) のような文のムードは感情表出のムード (expressive mood) で、発話時の現在においてのみ成り立つものである。主節はテ形節に対して意味的な影響を及ぼすことがない。そのため、2.2.1節でも述べたようにテ形節の成立・不成立はテ形節の意味内容 (完了か未完了か) によるのである。(13b) のテ形節は出来事がまだ完了していないと読み込まれるから、不自然になる。

主節がテ形節に意味的な影響を及ぼさないということについて、英語の感情語と that 節との関係でも、よく似た現象が見られる。

(15) I' m not surprised that the dog bit the mailman.
(Hooper1975)

---

[3] それでもなお (11b) (12b) は不安定かもしれない。「書いていて」「散歩していて」のほうがはるかに自然だという意見もあったが、本稿の方針として (a) と (b) を比べるとき、どちらの方が自然かを基準にしていく。

(15) において主節の否定はthat節に影響を及ぼさない。主節が否定されても、that節の内容も否定されることはない。つまり、犬が郵便集配人を噛んだことは真のことで否定できないことである。そしてsurpriseは非断定的・叙実的述語 (nonassertive true factive predicate) として真の内容[4]を持つthat節を要求する述語類である。

(14) のような文のムードは事実を主張・報告するムード (assertive mood) で、過去・現在・未来において全て成り立つものである。そして、主節はテ形節に対して意味的な影響を及ぼしているといえる。

(16) The boss didn't say that he wanted to hire a woman, he said he had to hire a woman.
(上司は、婦人を雇いたいと言わなかった。婦人を雇わねばならぬと言ったのだ。) (Hooper1975)

Hooper (1975) によれば (16) の主節の否定は that 節の内容も否定するのである。say のような動詞は断定的な述語 (assertive predicate) で一緒に現れる that 節が断定の領域内におさまると述べている。そのため、主節からの意味的な影響を受けるというように再解釈できると考えられる。

Hooper (1975) では、述語のクラスと that 節の関係を述べられているが、文のムードのタイプについて何も述べられていない。しかし、英語のデータから本稿が提示した文のムードのタイプによるテ形節と主節の関係はある程度正しいと考える。2.2 節をまとめると、以下の表のようになる。

---

[4] 真の内容とは実現している出来事を意味すると再解釈できる。そのため、主節が現在時制の場合における日本語のテ形節の内面的意味 (完了) と平行しているといえる。

まとめⅡ:

ムードのタイプ	時制	テ形節と主節の関係	対応する例文
感情表出	現在のみ	主節の領域外	(8ab) (9ab) (10a) (11a) (12a) (13ab)
事実の主張・報告	現在・未来・過去	主節の領域内	(10b) (11b) (12b) (14)

4　タイ語の感情語とthîi節の関係について

タイ語のthîi に複数の機能がある。

(17) หนังสือที่ฉันซื้อมา

naŋsɯɯ thîi chán sɯɯ maa
本　関係代名詞　私　買う　来る
私が買ってきた本。

(18) ผมทำงานอยู่ที่โรงพยาบาล

phôm thamŋaan yùu thîi rooŋphayaabaan
ぼく　働く　いる　で　病院
ぼくは病院で働いている。

(19) ฉันดีใจที่เกิดเป็นลูกชาวนา

chan diicay thîi kəəd pen luuk chaownaa
私うれしい　COMP　生まれる　に　子供　農家

私は農家の娘に生まれてうれしい。

(COMP(Complementizer)は、 補文標識を示す)

本稿の分析対象は (19) のような thîi の機能で、thîi を含めた節を thîi 節と呼ぶことにする。

4.1 原因としての意味解釈

(20) a. เด็กๆพอใจที่เห็นดำคาบขยะและใบไม้

dèk dèk phɔɔcay thîi hěn dam khâap khàyà lɛ baimài

子供 満足する COMP見える ダム (犬) くわえる ゴミと葉

子供はダムがゴミと落ち葉をくわえているのを見て満足した。

b. เขาเสียใจที่สอบตก

khăo siăcay thîi sɔɔp tòk

彼 悲しむ COMP 落第する

彼は試験に落ちて悲しい。

(20a b) において thîi 節は「phɔɔcay (満足する)」「siăcay (悲しむ)」という感情を引き出した原因の出来事として解釈できる。2.1 節でも述べたように感情は自立で表出したものではなく、何らかの出来事が引き金になってそれによって引き起こされるのである。

すなわち、感情語と thîi 節の関係、または日本語の感情語とテ形節の間には、日本語とタイ語の両言語に共通する特徴として、原因・結果という関係が観察できる。

4.2 thîi 節の原因の意味の範囲

(21) ฉันแปลกใจที่ได้ยินข่าวนั้น

dichǎn plɛɛkcay thîi dâyyin khàao nán
私　驚く　COMP　聞こえる　ニュース　その
私はそのニュースを聞いて驚いた。

(22) ต้อมและต้นดีใจที่จะได้ไปเที่ยว

Tôm lɛ Tôn diicay thîi phruŋníi ca day paythîiaw
人名と人名　うれしいCOMP　明日　FUT　ことになる　遊びに行く
トムとトンは明日遊びに行くことになって喜んでいる。

(23) นภาเสียใจที่ผู้จัดการจะแต่งงาน

Naphaa siǎcay thîi phûucatkaan cà tɛŋŋaan
人名　悲しむ　COMP　部長　FUT　結婚
ナパーは部長が結婚することになって残念に思っている。

(22) (23) の例から、タイ語の thîi 節は日本語のテ形節より原因の意味の範囲が広いと言える。(21) では thîi 節の出来事は日本語と同様既に生じたことであるが、(22) (23) のように thîi 節はまだ生じていないことを表すこともある。このような thîi 節は〈契機〉として扱うことにする。契機とは例えば (22) の thîi 節はまだ実現していないが、トムとトンは明日遊びに行くことになるのを知ることによってうれしいというように、うれしいという感情は、未来の出来事を認知することによって導き出されるものであり、thîi 節は刺激として感情を導き出すのである。

つまり、タイ語の thîi 節には原因のみならず契機という意味合いも含まれることから、タイ語の thîi 節が持つ原因の意味は、契機やきっかけを含む広義的な原因である。それに対して日本語のテ形節は、(6b) (7b) のように

未来の出来事を示すことが出来ないことから、狭義的な原因を表しているというように結論付けられるのではないかと考えられる。

5　まとめと今後の課題

本発表では感情語の文において日本語のテ形節とタイ語の thîi 節を観察した。その結論としてタイ語の thîi 節は日本語のテ形節より原因の意味が広いということがわかった。日本語のテ形節が主節の意味的影響を受けるか否かは文のムードのタイプによるものだと言える。タイ語の thîi 節においてはこの点を考察しなかったが、一般的傾向として、タイ語の thîi 節と主節の関係は文のムードのタイプとは無関係だと考えている。その理由として、タイ語の感情語は動詞であり、一人称の主語選択制限がない。そのため、上で挙げたタイ語の例文は少なくとも感情表出ムードの文ではないということから推測できる。

最後に、これらの問題は感情語の個別の語彙の意味の問題として考えられるかもしれない。特に「たのしい」とそれに対応するタイ語の「sanùk」は、ほかの感情語とは性質が違うのではないかと思われる。「たのしい」は時間の過ごし方についての評言であり、感情というより感覚に近い性質を持っている。そのため、「たのしい」の文から原因の意味が捉えにくくなることはある。この点に関しては今後の課題とする。

例文出典

日本語の例文：yahoo. co. jp の検索

タイ語の例文：『แบบฝึกอ่านภาษาไทยชั้นป.1』、『タイ語の基礎』

参考文献

菊地康人（2000）「タノシイとウレシイ」『日本語：意味と文法の風景―国広哲弥教授古希記念論文集』ひつじ書房

言語研究会構文論グループ（1989）「なかどめ――動詞の第二なかどめのばあい――」『ことばの科学2』むぎ書房

田中寛　（2004）『統語構造を中心とする日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

寺村秀夫（1971）「“タ”の意味と機能」『言語学と日本語問題』くろしお出版

――――　（1973）「感情表現のシンタクス―「高次の文」による分析の一例―」『言語』2巻2号

仁田義雄（1995）「シテ形接続をめぐって」『複文の研究（上）』仁田義雄編　くろしお出版

細川英雄（1989）「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』158集

三上直光著（2002）『タイ語の基礎』白水社

山岡政紀（2000）『日本語述語と文機能』くろしお出版

Joan B. Hooper (1975) On Assertive Predicates. *Syntax and Semantics.* Volume 5. Academic Press, New York. pp. 91-124　（邦訳：内田貢訳（1979）『邦訳断定的述語について』研究者出版）